JAPRS

JAN .2014 No.1

新春号

一般社団法人　日本音楽スタジオ協会

会長年頭挨拶

（一社）日本音楽スタジオ協会
会 長　内 沼　映 二

明けましておめでとうございます。
日本音楽スタジオ協会を代表し、謹んで新春のご挨拶を申し上げます。

昨年、当協会は一般社団法人に移行し、本年で設立25周年を迎えることとなりました。
これも偏に皆様のご支援、ご鞭撻の賜と厚く御礼申し上げます。

さて、この数年におけるソフト面に関する新たな動向としては、従来からのパッケージ商品に加え、ハイレゾ音源による高音質ソフトの分野では、２chステレオに留まらず、サラウンドによる配信も始まっています。

「音の匠」としてのプロフェッショナルなエンジニア、レコーディングスタジオの集団であることを目指すJAPRSとしては、このような音源制作の拡がりを意識し、音楽の基本である詞・曲・アレンジ・演奏そして歌唱を含め、音として一つの作品にまとめ、良質な音源を提供する技術が大切であり、より重要になってくると考えます。

JAPRSに於ける本年度のテーマとしては、パッケージ、ノンパッケージ共にハイレゾ化が進む音源制作に対する対応／次世代を意識したレコーディング・エンジニアの人材育成／音楽制作の現場を支えるレコーディング三者協議会（ref）に於ける機能の活性化／新規会員の入会促進活動 を主要な目標とし、各委員会を通じて、協会活動の活性化に努める所存です。

本年も、皆様からのご支援、ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

スタジオ見学会レポート
Ⅰ. Bunkamura スタジオ

オタリテック株式会社
河野 洋三

5月23日に行われたJAPRSスタジオ見学会に参加しました。今回は渋谷の一等地に位置する大型複合文化施設「Bunkamura」内のBunkamura Studioです。

賛助委員会・西原委員長

私は営業という立場上、日々スタジオさんへは「営業」という意識を持っておじゃまするものですから、改めてゆっくりとスタジオを見学させていただくことは非常に貴重な経験でした。またスタジオ設立に関わったバーディハウス伊藤社長、日東紡音響エンジニアリング崎山様のお話を聞くことで、スタジオのコンセプトをより深く理解することができました。

私が一番印象に残っているのは、天然木をふんだんに使ったスタジオ内の居心地の良さです。側面には敢えてランダムに打ち込まれたエゾ松/トド松の壁、渋谷という立地上普通はなかなか実現が難しいと聞いた約5mという天井高と、スタジオ全体に張り巡らされた天然木が生み出すナチュラルな響きとゆったりとした佇まいは非常に心地よく、音響はもちろん、演奏者にとっても快適な空間であろうと想像できます。

今日では当たり前となった「アンテルーム」も設立当時は新しいアイデアであったとのこと。独立したユーティリティスペースを作ることで居住性を味わえるよう意識したというコンセプトを見てとることができます。

バーディハウス・伊藤社長

また空調運転時の騒音レベルを減らすために、太いパイプを使ってゆっくりとした空気をスタジオ全体に行き届かせる工夫をしているというお話がありました。そのために空調室は通常の建築物より広めに作ってあり、伊藤社長の一声でその場で空調室を見せていただくことができました。

普段スタジオの空調室を見学用に開放することはあまりないと思いますが、見応え充分でこの辺の臨機応変さもJAPRS企画ならではと思いました。

さて、メインスタジオは、「1 Studio 2 Controlroom」にすることでスタジオの効率化を図ったとのこと。通常はスタジオ1つに対して１つのコントロールルームがありその間は一つの遮音ドアがあるのみですが、Bunkamura Studioは１つのスタジオに対してA/B ２つのコントロールルームがあり、セッションが終了したらそのままミックスダウンの作業に移り、作業を移動したコントロールルームはすぐに次のセッションの準備をすることができます。これらの移動作業がリニアに行うことができるそ

うです。それぞれのコントロールルームからスタジオへの廊下が部屋のような形状になっており、スタジオとの行き来をより一層印象付けます。この空間から見るスタジオ内の風景が私はとても好きです。

またレコーディングスタジオとオーチャードホール、シアターコクーンとは常時184回線をシステムアップしており、ライブ録音が可能だそうです。大型イベントの際はその効果を発揮し、これこそまさに“大型複合文化施設“と言えると思います。

さて今回から3回に亘って行われるという賛助委員会主催「スタジオ見学会」、会員のみなさま、スタジオさんのスケジュールも合わせて見学の場を設けて頂くことは、本当に難しい事だったと思います。今回この様な貴重な体験をさせて頂き、関係された全ての方々に感謝致します。

有難うございました。

Ⅱ. LAB recorders

日東紡音響エンジニアリング株式会社
音空間事業本部 企画営業部
音響設計グループ　崎山 安洋

平成25年６月25日（火）、賛助会員を対象としたスタジオ見学会の第２回目として、東京都港区西麻布にある“ラボレコーダーズ”の見学会が実施された。参加者は、JAPRS賛助会員18名。当日、六本木駅から坂を下り西麻布交差点方面へと向かった。ラボレコーダーズは、西麻布の交差点より、通りを一本入ったところにあるため、都心とは思えないほどの静粛な環境にある。

見学会は、スタジオ概要と音響設計についての説明を交えながら、“A-STUDIO”、“B-STUDIO”の見学会となった。スタジオ概要については内沼 映二氏（ミキサーズラボ会長/JAPRS会長）から、音響設計については豊島 政実氏（四日市大学客員教授/JAPRS相談役）から、お話を伺うことができた。お二人は、音楽スタジオ業界の重鎮として活躍されているが、お二人のコンビで80年代中期から多くのスタジオを手掛けられており、スタジオ説明の中に、スタジオの変遷、ハイレゾ音源の試聴等などを交え、多岐におよぶ興味深い内容であった。

今回は、Aスタコントロールルームに集合し、内沼氏、豊島氏の説明を受けた後、Aスタの見学。その後、Bスタに移動し、Bスタ見学と簡単な質疑応答に引続き、ハイレゾ音源の試聴が行われた。

ミキサーズラボ、内沼氏の講演概要を報告する

ミキサーズラボ・内沼会長

まず、内沼氏より、スタジオの沿革についての説明があった。ラボレコーダーズは、1996年、当初“WARNER MUSIC RECORDING STUDIO”として開設された。当時、WARNER MUSIC会長の小杉 理宇造氏より、内沼氏と豊島氏にスタジオ建設の依頼があり、内沼氏は計画から運営まで参画された。2003年、経営がMIXER'S LABに移管され、2011年、“LAB recorders”に名称変更された。このスタジオは、スタジオ専用ビルとして西麻布に建設された。

３スタジオで構成され、リズム録りからストリングス録りまでを行え、メインフロアに隣接して４つのブースが付属する“A-STUDIO”。ダビングからトラックダウン作業までが行える１ブース付きの“B-STUDIO”。小規模で１ブースの“C-STUDIO”。AスタとBスタのコントロールルームは、ほぼ同規模の大きさで、コンソールは、AスタがSSL 4000G、BスタがSSL 9000Jである。

内沼氏と豊島氏は、東京タワー前に在った日音スタジオで、最初のスタジオ造りが始まり、それ以降、二人三脚で、数々のスタジオを造られた。その後、日音スタジオに豊島氏とTownhouseのエンジニアが来訪、日音スタジオを気に入り、同じ物を造って欲しいとのことで、ロンドンのTownhouse Studioが造られた。それを皮切りに、豊島氏は、ロンドンにおいて、Metropolis Studio、Olympic Studio、Abbey Road Studioと、多くのスタジオを手掛けられることとなった。一方、国内においては、1980年代中期から90年代にかけて、日本経済がバブル景気の頃、レコスタ建設ブームとなり、多くの音楽スタジオが次々と建設された。お二人のコンビで、スタジオサウンドバレイ、パラダイススタジオ、アザブ・オー・スタジオ（オンエアー麻布スタジオ）、ウエストサイド等々が造られていった。

ラボレコーダーズのラージモニタースピーカは、当初“GENELEC 1035A”、内沼氏は、LondonのTownhouseで音を聴いて衝撃を受け、“これしかない”とのことで、採用された。1989年の同時期に、国内では、キングレコード、ビクター青山スタジオと導入された。これがきっかけとなり、その後、音楽録音スタジオに次々と導入され、いまやスタンダードモニターといえる存在となってきた。今年は、GENELEC創立35周年で、この６月にフィンランド本社で開催された記念式典に御両名とも、参加されて帰国されたばかりとのことであった。

四日市大学客員教授、豊島氏の講演概要を報告する（Ａスタを見学）

四日市大学客員教授
豊島 政実氏

スタジオ造りは、音だけでなく、居住性、デザイン、設備（空調・電気）も、重要な要素である。

“A-STUDIO”は、メインフロアにブース4室が隣接している。リズム録りからストリングス録りまで、様々なセッションに幅広く対応できるスタジオとなっている。残響時間については、オーケストラ録音には0.6秒、バンド録音には0.5秒が最適である。多目的な使用に対しては、残響可変などの手法をとることもある。

コントロールルームは、正面にスタジオに繋がる見通しの良い覗き窓があり、窓上部にGENELECラージモニターがビルトインされている。天井面には、間接照明が多く使われており、明るさ、空間の柔らかさ、拡がり感が表現されていた。壁面は、収納等の扉があるが、壁と同一素材のファブリック仕上げで、壁と一体感があった。

メインフロアは、外部に面した窓があり、ガラスは拡散形状となっている。窓の外にすばらしい光景が見えるという訳ではないが、外光が入ることで、ちょっとホッとする空間となっている。天井には、大きな拡散反射板が吊るされ、アコースティック楽器の収録にも、拡散性が良く、癖のない音場が形成されていた。片面反射、片面吸音の音響衝立も数台あり、セッションに合わせて、柔軟な楽器配置に対応。

“B-STUDIO”を見学（お二人のお話を交えて）

Ｂスタジオは、コントロールルームにブース１室が付属。ダビングからトラックダウンまでの作業に適したスタジオ。コントロールルームは、Ａスタと同等の規模・仕様であるが、正面壁の左右に扉があり、音はまったく同じではないとのことであった。

ブースは、Ａスタと同様、外光を採り入れ、天井および壁面には、傾斜した反射板が大きな面積を占めている。広さもあり、弦カルテット録音もできる面性である。

若干の質疑応答の後、コントロールルームで、内沼氏録音のハイレゾ音源を聴かせていただいた。再生音源は、「石川さゆり」と「ビッグバンドジャズ」etcで、ハイレゾならではの繊細さ、ダイナミック感が出ていた。

近年、デジタル技術の進化に伴い、録音はハードディスクレコーダーが使用され、最近はHD化されたことで、音質が良くなった。一方では、アメリカを中心にアナログLPの復活が見られる。CD音源と違い、両者とも可聴限界以上の記録がされている。デジタル音源が、よりアナログ音源に接近しつつあるなどのお話があった。

また、スポティファイなどのストリーミングサービスなどもあり、音楽購入も、イン

ターネット通販からダウンロードまで、多様化している。
　豊島氏より、日本のスタジオを設計した、海外の音響設計者が紹介された。
　トム・ヒドレー（CBSソニー信濃町スタジオ/フリーダムスタジオetc）、ジョージ・エドワード（サウンドイン/グリーンバード/サウンド・シティetc）。トム・ヒドレーの設計したモニタースピーカは、38cmウーファにホーンタイプで、「WESTLAKE TM-3」などのモデルがあり、ある年代に多くのスタジオで使われていた。

見学を終えて
　今回のスタジオ見学会は、講師の内沼氏・豊島氏が、音楽録音スタジオに長期間に渡って関わられてきた方々であったこともあり、スタジオ見学以外に日本のスタジオの歴史を踏まえたお話を聞くことができた。これが、今回の特徴であったように思う。
　世の中では、圧縮音源をダウンロードし、ヘッドホンで聴くというスタイルが、巷に溢れている。一方では、マスター音源に近いハイレゾ音源をスピーカで再生する聴き方もある。どちらが正しいという訳ではないが、音楽の楽しみ方も、様々であることは、紛れも無い事実である。店頭に並ぶ再生機器も、ヘッドホン再生機器が主流で、ミニコンポが少々あり、かつてのコンポは無く、次はハイエンドオーディオ。
　このことが、今後の音楽録音スタジオの在り方に大きく影響をしていくのだろう。
　何と言っても、良い演奏で、良い音場で、良い録音がされている音楽は、聴く者に言葉にしがたい感激を覚えさせるものである。何十年も以前に録音された音源をリマスターした音楽、場合によりリミックスした音楽、演奏の良いものがリマスターされるので、聴いて感動する。さらに、よい環境で、大きな音で聴けると、なおさらである。レコードメーカーのディレクターによると、ある販売量が見込めないと、企画会議に出せないらしい。感動する音楽は、時代を超えて、聴かれると思うのだが…。
　講師を務めて下さった内沼 映二氏、豊島 政実氏には、多岐に渡る解説を頂き、誠にありがとうございました。改めて、スタジオの色々な状況を考える機会となりました。この場を借りて、お礼を申し上げます。

Ⅲ. サウンドインスタジオ

株式会社ソナ
萩原 一哉

今回で３回目となる、賛助委員会主催のスタジオ見学会。
毎回素晴らしいスタジオを見学させていただいておりますが、今回はサウンドインスタジオ様へ伺ってきました。
業界の老舗とも言われるスタジオですが、私自身このスタジオはロビーへお邪魔をしたことしかなかったので、非常に興味深い見学会となりました。

当日は猛暑にも関わらず25名の参加があり、今回も盛況となりました。
また、サウンドインスタジオ様のご配慮により、４グループに分かれて見学をさせていただきました。
大規模スタジオのため、このようにグループ分けをしていただき少人数で見学をさせていただけたことは見学者にとって大変ありがたいことであり、この場をお借りして御礼申し上げたいと思います。

サウンドインスタジオ・石野常務

冒頭に、石野常務取締役より、御挨拶を頂戴しました。
スタジオ設立当初のエピソードや、苦労話など、どれも貴重なお話で、このスタジオの歴史の永さを感じました。

相川 洋一 氏

続いて、相川様より、スタジオの変遷を中心としたお話をいただきました。
1979年設立時から今に至るまでのスタジオ運営の遍歴や、改修工事の時期、追加で出来上がっていったスタジオの説明など、実際にこのスタジオがどのように造られ使われてきたのかを、非常に分り易く説明いただきました。

河野 洋一 氏

続いて、各スタジオの使用用途や技術的な説明を、河野様、大槻様よりいただきました。
Aスタジオはフルオケに対応できる広さを持っていることにより、映画音楽やゲーム音楽（生演奏もの）などに使用されることが多いこと、Fスタジオではサラウンドミックスの対応が可能なこと、自社製作コンソール：オーバークオリティ（通称：オバキュー）やNESラージモニターのことなど、音楽制作現場に対し質の高い技術提供を常に心がけられていることがうかがえました。
また、設置建物の地下にはスタジオ専用の空調機械室や専用キュービクルなどがあり、ストレスのない作業空間をバックアップしているとのことでした。

以下に主なスタジオの概要とイメージを簡単に記しておきます。

大槻 博也 氏

【A.studio】

業界屈指の広さを持つスタジオは、ライブゾーン、ニュートラルゾーン、デッドゾーンの３エリアに分けられており、それぞれの楽器に適した素晴らしい音響空間となっていました。

また、充実した６つのブースがあり、大編成の同録時でもセパレーションの良い録音が可能となっておりました。

2004年に改装工事をされたそうですが、天然木をふんだんに使用した内装が印象的でした。

【B.studio】

サウンドイン自社開発のコンソール、オーバークオリティが導入されており、全てのオーディオパスがディスクリート・アンプで構成されているとのこと。また、コンソールにヘッドアンプを持たせず、ヘッドアンプはマイクの至近距離で使用することにより、質の高いレコーディングを実現させているとのことでした。

主にリズム録りなどが多いとのことですが、このスタジオ内の鉄骨階段の構造設計に大変苦労をされたそうで、デザインも素敵で撮影などでも使われるそうです。

音響設計の説明
日東紡音響エンジニアリング
崎山 安洋 氏

【C.studio】

B.studioに隣接するC.studioは、お互いのスタジオで発生する音がそれぞれへ影響を与えないよう、２重の固定遮音壁を設けたそうです。これにより繊細な歌声を録音するときなど、マイクのゲインをあげても全く問題がない空間になっているそうです。ドーム型のヴォーカルブースは白と青が基調の内装で仕上げられ、非常に落ち着いたイメージでした。また、５ｍの天井高があり、昨今ではあまり見られないゆとりの空間となっていました。

コントロールルームには、B.studio同様オーバークオリティコンソールとリモート・ヘッドアンプが導入されており、トラックダウンという最終段階の作業でも、ディスクリート・アンプの良さを発揮しているそうです。

【F.studio】

5.1chモニタリングが可能なF.studioは、32フェーダーD-Controlをフィーチャーした ICONシステムを導入し、映画のサウンドトラックからゲーム音楽まで幅広いジャンルに対応しているそうです。

Control Roomで矢沢永吉さんのライブ映像を再生していただきましたが、非常に聴きやすい音場で、作品の素晴らしさを実感させていただきました。

また、ブルーが基調の内装デザインは、現代人にマッチするスタイリッシュな空間でした。

【その他スタジオ等】

サウンドイン様には上記の主立ったスタジオの他、大型アナログコンソールを使用するMix RoomのG.studio、SSLのＡWSコンソールを使用するJ.studio、K.studio、などがあり、使い勝手の良いスタジオをリーズナブルな料金で提供されているそうです。また、2012年に増設されたM.studioは、G.studio、K.studioとリンクしており20人まで

のアフレコ同録も可能とのこと、音楽制作だけに固執せず幅広いジャンルに対応しているとのことでした。
　2005年からは、DVDのオーサリングを開始し、2009年からは、ノンリニア編集の可能な映像編集室やBlu-ray Discのオーサリングが可能なスタジオも備え、映像分野にも業務を拡張されているそうです。

　最後になりますが、業務ご多忙中にも関わらず大人数での見学を快諾いただきましたサウンドインスタジオ様へは、改めて御礼を申し上げたいと思います。
　どうも有難うございました。
　また、賛助委員会主催のスタジオ見学会は、次年度も引き続き実施させていただくことになっております。これからも素晴らしいスタジオを沢山紹介していきたいと思いますので、是非ともご参加のほど、宜しくお願い申し上げます。

平成25年度通常総会＆懇親会レポート

＜通常総会＞

６月５日（水）、JAPRSは港区元赤坂の明治記念館１Ｆ「千歳の間」において、平成25年度通常総会を開催し、平成24年度の事業報告書（案）決算報告書（案）、平成25年度事業計画書（案）及び収支予算書（案）、について正会員に諮り、全ての議案が異議なく全員一致で承認された。

はじめに、佐藤事務局長が定足数の確認を行い、書面表決書を含む38名の出席数を確認（定足数）、総会の開会を宣言した。

続いて内沼会長が議長に当たり、議事録署名人として副会長の石野 和男氏、専務理事の清水 三義氏の両名が選出された。

次に石野副会長及び佐藤事務局長より第１号議案「平成24年度収支決算報告書（案）」について説明が行われ、審議の結果、異議なく全員一致で承認された。

続いて第２号議案「平成２５年度収支予算書（案）」について説明が行われ、審議の結果、第１号議案と同様に全員一致で承認された。最後に議長である内沼会長が閉会を宣し解散した。

＜懇親会＞

通常総会終了後、18：30より明治記念館１Ｆ「末広の間」において、正会員、賛助会員及び招待者を含む82名が集い、懇親会が開催された。

司会進行は運営委員会の江下副委員長（バーニッシュ）と茂木副委員長（個人会員）の２名が担当し、内沼会長の開会の挨拶に続き、経済産業省 商務情報政策局 文化情報関連産業課 課長補佐　望月 孝洋氏により来賓代表として挨拶が述べられた。

内沼会長

経済産業省・望月 孝洋 氏

続いて乾杯となり、恒例により本年４月から賛助会員として新たに入会された（株）エムアイセブンジャパン会員代表者、（株）シンタックスジャパン、三橋 武氏により乾杯の発声が行われ、歓談タイムとなる。

更に歓談が続くうちに中締めの時間となり、（株）メディア・インテグレーションの岡田 詞朗氏による挨拶が行われ、本年度の懇親会も無事に終了となりました。

三橋 武 氏

岡田 詞朗 氏

第14回JAPRS新プロ・エンジニア養成セミナーレポート

平成12年第１回目を開催して以来、今年で14年目を迎えたのが、この新プロ・エンジニア養成セミナーです。

専門学校委員会の主催により実施されているこのセミナーは、JAPRS賛助会員加盟専門学校18校の２年生以上を対象として、東京地区、大阪地区正会員スタジオの協力により継続されているもので、プロのレコーディングスタジオにおけるセッション開始前のスタジオセットアップを体験させることを主目的としています。今回は、６月８日（土）～6月15日（土）の期間で東京地区１日２回、２日間計４回、大阪地区１日１回開催。

実施内容

①アシスタントエンジニアによるスタジオブースの説明
②アシスタントエンジニアからのアドバイス
③ミックスダウンのセットアップ
④ミックスダウン・デモ
　2chバランス・2chメーターの確認　EQの使用方法　DYN・INS系の使用方法
　クロス・パッチ等　AUX系のエフェクタ・バランス トータル処理の方法

東京地区会場６月８日（土）、９日（日）
於：サウンドインスタジオBst
　参加者：11校　61名
　エンジニア：吉田 保 氏
　アシスタントエンジニア：佐藤 千恵 氏

サウンドインスタジオBst

大阪地区会場６月15日（土）
於：スタジオグルーヴAst
　参加者：３校　15名
　エンジニア：吉田 保 氏
　アシスタントエンジニア：松嶋 毅之 氏

タイムスケジュール

東京会場：サウンドインスタジオBst
６月８日（土）
　　１回目　13：00～15：15
　　２回目　15：30～17：45
　９日（日）
　　１回目　13：00～15：15
　　２回目　15：30～17：45

大阪会場：スタジオグルーヴ Ast
６月16日（土）
　　１回目　13：00～15：15

スタジオグルーヴAst

2013年JAPRS企業説明会レポート

受　付

平成25年６月29日（土)、レコーディングスタジオへの就職を目指して専門学校に在籍する学生を対象とした合同企業説明会が東放学園音響専門学校・渋谷校舎で開催されました。この催しも今回で13回目となり、JAPRSの公式行事として定着している。

参加学生は、仙台、名古屋、大阪からの学生を含めて59名が参加。また、出展側からは、正会員スタジオ８社と賛助会員１社から14名の参加により実施された。

定刻13時より同校の３階３Ａ１教室にて参加者全員が集い、内沼会長および専門学校委員会・吉田委員長より挨拶の後、引き続いて、参加企業各社が自社の概要を紹介。

内沼会長

専門学校委員会
吉田委員長

その後、説明会会場を各教室に分け、二部がスタート。今回は一回あたりの説明時間を30分とし、前半の３回は協会で指定した出展ブースの説明を受け、15分の休憩後、後半の２回は各自が希望するブースでの説明を受ける方法で実施した。

リクルートスーツに身を固めた熱心な学生たちが説明に耳を傾け、メモを取り、質問をする光景が見られました。

予定時刻の17時に５回目の説明が無事に終わり、企業説明会が終了。

報告の最後に、ご出展いただいた企業の皆様に心より感謝申し上げます。

（株）サウンドインスタジオ

（株）サウンド・シティ

（株）フリーダムスタジオ

（株）ミキサーズラボ

（株）メディア・インテグレーション

（株）エムアイティギャザリング

（株）音響ハウス

（株）バーディハウス

（株）バーニッシュ

出展企業は以下のとおり・・・

（株）エムアイティギャザリング	代表取締役	横山　　武
	エンジニア	山口　敦史
（株）音響ハウス	経理総務部　副部長	豊田　重成
	技術部マネージャー	太田　友基
	技術部チーフ	櫻井　繁郎
（株）サウンドインスタジオ	主事	河野　洋一
（株）サウンド・シティ	営業部部長	明地　　権
（株）バーディハウス	取締役	横井　俊一
	ブッキング	伊藤　　敦
	ブッキング	田中由美子
（株）バーニッシュ	ゼネラルマネージャー	高橋　孝典
（株）フリーダムスタジオ	代表取締役	目等　　進
（株）ミキサーズラボ	統括次長	中村　隆一
（株）メディア・インテグレーション	取締役	岡田　詞朗

第12回JAPRS認定「サウンドレコーディング技術認定試験」実施報告

7月7日（日）、札幌、仙台×2、新潟、東京×8、静岡、名古屋×3、大阪×3、広島、那覇の9地区21ヶ所の団体受験会場に分散して実施された「第12回サウンドレコーディング技術認定試験」については、当初の受験申請者数646名に対し、欠席者78名を除く当日の受験者数568名の参加により実施されました。

試験内容は例年通り四者択一マークシート方式で、音響の理論/電気音響とスタジオシステム/レコーディング技術と先進技術/音楽・音楽著作権・音楽録音の流れ・録音の歴史などの4ジャンルから各25問（計100問、1000点満点）が出題されましたが、平均点は709.7点という結果になりました。以下の通り実施結果の詳細を報告致します。

東放学園音響専門学校

専門学校ESPエンタテインメント

（1）受験申請者646名　欠席78名　受験者568名（男性323名、女性245名）
　　最低点0点　最高点1000点（9名）　平均点709.7点

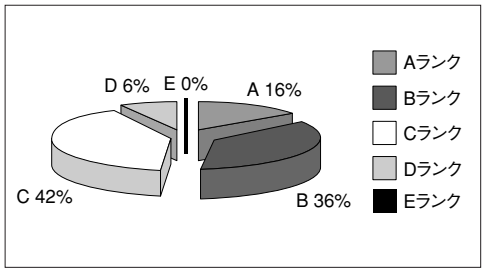
（2）平均点詳細（各ブロック250点満点）
　Ⅰ.音響の理論
　　正答率　73.5%　平均点　184点
　Ⅱ.電気音響とスタジオシステム
　　正答率　66.8%　平均点　167点
　Ⅲ.レコーディング技術と先進技術
　　正答率　65.4%　平均点　164点
　Ⅳ.音楽・音楽著作権・音楽録音の流れ・録音の歴史など
　　正答率　78.2%　平均点　195点

（3）得点別人数

1000～900	99名
890～800	95名
790～700	108名
690～600	105名
590～500	103名
490～400	45名
390～300	9名
290～200	3名
0	1名
計	568名

（4）ランク別人数

Aランク	1000～901点	89名
B　〃	900～701点	204名
C　〃	700～451点	242名
D　〃	450～201点	32名
E　〃	200点以下	1名
計		568名



オーディオテクニカ施設見学会レポート

株式会社フリーダムスタジオ
目等　進

８月29日（木）14：00オーディオテクニカ成瀬事業所集合とのことで、この猛暑の中、伺わせて頂きました。

集合時間には、参加者18名全員がそろい、技術委員長　清水さんよりまずご挨拶があり、施設見学会スタートです。

事業所地下の会議室で、JAPRS担当　大田氏より、ご挨拶、今回の工場見学の説明を受けた後、続いて生産課マネージャー　青砥さんから、この成瀬事業所で行っている生産内容の説明を受けました。大半の製品は、生産拠点を海外に移していて、この工場では、ハイエンドのHP（ヘッドホン）の組み立て、プロユース仕様のMICの組み立て・検査を行っているそうです。

オーディオテクニカ
大田 祐平 氏

工場内はコンパクトなレイアウトとなっているため、二班に分かれて、見学することとなりました。

私の班は、「無響室」の見学からで、まず四畳半ほどある無響室の見学をしました。

使用目的としては、プロユース仕様MICの特性チェック、新規開発のMICの特性確認などで、ルーム自体も大きく、様々な特性チェックを行えるとのことでした。次に伺ったのが、人一人立てる小さい無響室で、汎用MICの特性（指向性などを含む）チェックなどが、オシレータとターンテーブルを利用して、自動で検査できる機能もありました。実際に作業して頂き、周波数特性などが記録される様を見ることが出来ました。修理後のMICの検査チェックにも使用されるとのことです。

生産課マネージャー
青砥 隆文 氏

次に通されたのは、MICのエレメント製作を行っているROOMです。当然ガラス越しの見学（粉塵等を避けるため）でしたが、セル生産に近く、一つ一つ丁寧に製作しているのが判ります。顕微鏡などを使用し、繊細な作業だと思われますが、変なお兄さん方に食い入るように見られていたら、なかなか落ち着いて作業できなかったのでは、、、、。申し訳ありません（汗）。

また、奥まったところでは、HP最高級品Wシリーズの組み立て工程を見学できました。Wシリーズは、左右のカバーが木製（ブラックチェリー）で出来ていて、丁寧にマウントしていました。こちらもセル生産方式で組み立てをしていて、木目や色合いも左右で合わせるよう組み上げ、電気的特性だけでなく最良の製品を提供するために丁寧に作り上げることが、目標とのことです。

その後、コンシューマで使用されるMICの検査・納品を見学させて頂きました。
簡易な無響室が有り、製品をその中で最終チェックをしていました。一つは、周波数特性、もう一つはS/N比の検査だと思われます。手際よく作業されていて、チェック自体もマニュアル化されており、作業はスムーズでした。

我々が、普段スタジオで使用しているMICが、セル生産による手作りに近い丁寧な組み

立てと、非常に厳しい検査の後、手元に届くことに、あらためて感激しました。大半の生産設備を海外に持っているそうですが、一部のプロユース商品、ハイエンド商品の組み立てなどを国内に残している姿勢に、こだわりを感じました。

後半は、オーディオテクニカ町田営業所に移動（徒歩で約５分）して、テクニカギャラリーを見学させて頂きました。こちらは事業所とは別棟にありまして、総煉瓦造りの年期の入った建物です。２階にお邪魔して、総務部　桜井さんよりテクニカギャラリーの説明を受けました。

創始者が趣味で集めた蓄音機の内、約100台が展示されているとのこと。蓄音機だけでなく、音源となるロウ管・SP盤などもストックされているそうです。素晴らしかったのは、その内の複数機が実際作動して、音源を奏でることが出来ることです。蓄音機が展示される部屋の入口には、「エジソン社株券」（＄100）が展示してあります。蓄音機の古い物は、1900年初頭のロウ管を使用した蓄音機で、ねじを回すと、実際音楽が再生されます。幾つかのメーカーの蓄音機を実際に操作して頂き、当時の音楽を鑑賞させて頂きました。

此処で桜井さんから聞かせて頂いたエジソンのこだわりをひとつ、「エジソンは、今はSP盤に代表される円盤型の記録盤に納得しなくて、円筒型にこだわったそうです。円盤型では、円速度により内側に行くほど速度が遅くなり、外周との記録差が出てしまうが、筒型であれば、円速度の影響を受けないと考え、ロウ管にこだわったそうです。」私も、レコード盤のカッティング時には、カッテイングマンと内側のレベルを確保するため、Comp/Limのお世話になりました。また、Ａ面、Ｂ面の最後の曲は静かなバラードを持ってきたり、工夫したことを思い出しました。また、エジソンは、音楽鑑賞のために蓄音機を発明したのではなく、語学教育や、演説の記録など「記録」することを念頭に置いて発明したようです。

テクニカギャラリー

エジソンの思いとは別に、蓄音機が高価な物であったこともあり、お金持ちの音楽鑑賞のために機器が発展したことは、また素晴らしいことだと思えます。特に、テクニカギャラリーで、鑑賞させて頂いた蓄音機（メーカー名を忘れました）から流れる楽曲は、100年の時を超えても余りある感動のなか、聞かせて頂きました。演奏家がその場で演奏し、鑑賞する場所、時間に制限があった時代に、蓄音機の発明により、何処でも、何時でも音楽鑑賞できる蓄音機を発明、進化させてきた先人にあらためて感謝したいと思います。

時間になり、テクニカギャラリーを退出、オーディオテクニカの皆様にお礼を述べると同時に、100年前の音に包まれ、解散となりました。ありがとうございました。

第10回JAPRS認定「Pro Tools技術認定試験」実施報告

9月8日（日）、札幌×2、仙台、郡山、新潟、東京×8、横浜、名古屋×2、大阪×3、神戸、広島、博多、鹿児島、那覇の13地区24ヶ所の団体受験会場に分散して、「第10回JAPRS認定Pro Tools技術認定試験」が実施され、本年度の受験者数は、昨年度の510名に対して530名という結果となりました。

また、今回の試験については、昨年と同様に受験者個々のPro Toolsに関する知識をより明確に把握するために、初級50問（500点）、中級50問（500点）の出題構成とし、それぞれ「Pro Tools概要」「録音・編集」「ミキシング」「シンク・MIDI・用語集など」に区分された出題としたが、初級問題の正答率は69.2%、中級問題については50.69%、全体的な正答率は59.9%という結果になりました。以下の通り実施結果の詳細を報告致します。

専門学校
東京ビジュアルアーツ

専門学校
ESPミュージカルアカデミー

（1）受験申請者634名　欠席104名　受験者530名
（男性297名、女性233名）
最低点160点　最高点1,000点（6名）　　総合平均点599.4点

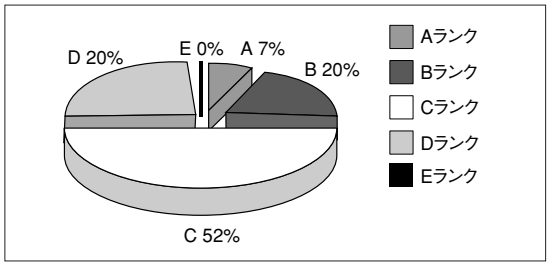
（2）平均点詳細
初級1（Pro Tools概要／120点）：92.3点
初級2（録音・編集／130点）：80.6点
初級3（ミキシング／130点）：97.7点
初級4（シンク・MIDI・ファイル管理など／120点）：75.4点
◆初級計346点
中級1（Pro Tools概要／130点）：72.5点
中級2（録音・編集／120点）：54.0点
中級3（ミキシング／120点）：60.6点
中級4（シンク・MIDI・ファイル管理など／130点）：66.3点
◆中級計253.45点

（3）得点別人数

1000～900	39名
890～800	36名
790～700	74名
690～600	101名
590～500	125名
490～400	96名
390～300	43名
290～200	14名
200～	2名
計	530名

（4）ランク別人数

Aランク	1000～901点	37名
B　〃	900～701点	105名
C　〃	700～451点	277名
D　〃	450～201点	108名
E　〃	200点以下	3名
計		530名



パッケージメディア高音質技術セミナーレポート

ビクターエンタテインメント株式会社
高田 英男

1．主旨

音楽ビジネス強化（パッケージ・ノンパッケージ）へ、「高音質化」をキーワードとし、差別化による音楽ビジネスが進んでいる。

今回、音楽パッケージメディアの高音質化をテーマとして技術セミナーを行い高音質に向けた現場の取組を学ぶ。

清水技術委員長

高田 英男 氏

沼能 隆 氏

2．内容

Ⅰ．パッケージメディアの高音質化（技術説明）

①BDメディアを使った高音質ソフト制作

講師：沼能 隆 氏／メモリーテック（株）

渡邉 勝 氏／（株）クリプトン

②プラチナSHMディスクによる高音質ソフト制作

講師：小澤 孝浩 氏／ビクタークリエイティブメディア（株）

渡邉 勝 氏

Ⅱ．ソフト試聴

③BDミュージック試聴

講師：渡邉 勝 氏／（株）クリプトン

④プラチナSHMディスク試聴

講師：小澤 孝浩 氏／ビクタークリエイティブメディア（株）

3．日時/場所

平成25年10月2日（水）　16:00～18:00

東放学園・新宿研究所401教室＆Bスタジオ

4．参加者　16名　（試聴環境により人数制限）

小澤 孝浩 氏

５．セミナー報告

①Blu-ray Disc™ for Audio

＊現在統一した名称は無し

・Blu-ray Discが持つ1層25Gバイトの容量をオーディオメインに使い、音質を限りなく追及したパッケージメディア。

・映像信号による音声信号影響を極力減らす。

＊映像データは楽曲メニュー、ジャケットイメージ静止画など。

＊CD感覚の操作性＆シンプルメニュー

・BD-Video規格に準拠し、全てのBDプレーヤー/レコーダーにて再生可能。

・96kHzまでのサポートが必須要件（192kHzはオプション）

・サラウンド（5.1ch、7.1ch）対応。

・コピープロテクトAACS（Advanced Access Content System）使用。

・音楽マスタリングスタジオ向けに音楽専用オーサリングソフトを開発。

＊オーサリング費用　１W＝10万円以下・・・

・BDミュージックディスク製造に対して、メモリーテック社はクリプトン社、カメラータ・トウキョウなどのソフト制作との連携により、製造ラインを大きく改善。

＊電源ケーブル、ラインケーブル、電源の取り回し、HDDの振動対策。

＊キューテック開発FORSシステム（データの忠実伝送）など・・・・

＜試聴感想＞

BDミュージックディスク音質（CD音源との比較）

・圧倒的に解像力が良く、音の鮮度／音の立ち上りの良さ／素直に伸びた高域など、従来のCD音質とは別次元の音質に感じた。

・操作性も簡単であり今回技術セミナーの為に、外付モニターを準備して頂いたがBDプレーヤー内モニターにて操作可能機種にてデモを行う。

・現在販売されているBDプレーヤーは基本映像ソフト対応に作られており、今後音質に拘ったBDプレーヤーがどの程度発売されるか、更に映像対応の大型モニター・・・など、今後の普及へのポイントに感じた。

②プラチナSHMディスク

ビクタークリエイティブメディアとユニバーサル・ミュージックにより開発

＜主な特徴＞

・世界初、純プラチナ（Pt1000）反射膜
プラチナ微粒子薄膜のきめ細かい表面特性は、ピットを正確に且つ表面を平滑に形成が出来る。

＊但し反射率はCD-DAの規格外。

・特製ターコイズ・ブルー・レーベル使用
再生機内で反射する不要なピックアップ光（迷光）を吸収する効果があるターコイスブルーにてレーベル面をコート。

・HR（High Resolution）カッティング
176.4kHz/24bitマスター音源からカッティング時にダイレクトで44.1kHz/16bitに変換＋K2レーザーカッティング。

＊マスター音源176.4/24の音楽情報を出来るだけCDフォーマットに収めカッティング。

＜試聴方法＞

・通常SHMCD/HRカッティング＋アルミ反射膜/HRカッティング＋プラチナ反射膜の３種類のディスクにて比較試聴。

＜試聴感想＞

・従来のSHMCDとプラチナ反射膜＋HRカッテイングディスクとでは、マスタリングが違うくらいに音質変化を感じた。
マスター音源との比較では無く（音質基準が無い）、あくまで通常SHMCD・・との比較であるが、低域の伸び、高域の艶やかさ、歪感の少なさ・・・などCDメディアでも、これだけ質の高いCDが出来る事は素晴らしい。
又、プラチナ反射膜効果だけではなく、HRカッティング効果との相乗効果による音質改善である。

纏め

パッケージ／ノンパッケージ共にハイレゾ化が進み、「高音質差別化」による新たな音楽ビジネスが動き出した今、アーティスト、エンジニア共に本質が問われる時代である。音楽表現の器が進化すればするほど、それを使い切る技術力＆お客様にとっての利便性が求められ、音楽感動を更に伝えられる大きなチャンスであると感じた。

エムアイセブンジャパン／シンタックスジャパン
新製品説明会レポート

株式会社シンタックスジャパン
三橋 武

平成25年11月１日（金）、弊社５階のショールーム「m-Ex Lounge」にて新製品イベントを開催させていただきました。僭越ながら代表して簡単なレポートをさせていただきます。

村井社長

当日は15名を超える、日本を代表するエンジニアの皆さまにお集りいただきました。そして、光栄にも弊社取り扱いの新製品を皆さまにご紹介させていただく機会を頂きましたこと、この場をお借りして改めて心より厚く御礼を申し上げたいとおもいます。ご参加の皆さま、そしてJAPRSスタッフの皆さま、誠にありがとうございました。

当日は、冒頭の弊社代表：村井 清二の挨拶から始まり、以下の流れで行いました。

第１部：Zynaptiq紹介デモンストレーション
（エムアイセブンジャパン　野村 寿男）

野村 寿男 氏

エムアイセブンジャパンは、次世代の64bit DAW「Studio One」を有するPreSonus、楽譜作成ソフトウェアのFinale、高品位なプラグインやハードウェアを提供する信頼のSolid State Logicなどなど数多くのブランドを取り扱っておりますが、今回はその中から、サイエンスの力で不可能を可能にするポストプロダクション向けの修復プラグイン、Zynaptiq社の製品にスポットをあて、製品の魅力を皆さまにご案内させていただきました。

UNVEIL（アンヴェイル）

UNVEILは、ミックス・シグナル内のリバーブ成分を減衰またはブーストできるデミックスベースのリアルタイム・プラグイン。独自の人口知能技術により、使い物にならなかった現場収録のオーディオやナレーション/セリフの修正、ライブ演奏の明瞭化、リバーブやエコーおよび不明瞭な成分の除去、そしてクリエイティブなサウンド・デザインを可能とします。当日は、実際に現場で収録したコンサート会場のMCの声を使い、ホール残響がUNVEILによって自然に取り除かれる様子をご紹介いたしました。

UNFILTER（アンフィルター）

UNFILTERは、コム・フィルター、レゾナンス、過度なイコライゼーションなどのフィルター効果を除去し、シグナルの周波数特性をリニア（直線状）にするリアルタイム・プラグイン。音楽制作、映画制作のポストプロダクション、MA、ゲーム、放送、サウンド・デザイン、科学捜査、エンジニアリングなど、UNFILTERなら使用対象となる分野に関係なく、多大な時間を要し不可能でさえあった修復タスクを、１つのコントロールを操るだけの簡単操作で実行できます。当日は、音のこもった不明瞭なバンド演奏の録音から、いままで埋もれて聞こえなかったギターのカッティング音やベースラインが鮮明に蘇る様子をご体験いただきました。

第２部：RME新製品紹介　～MADI Everywhere～
（シンタックスジャパン　三橋 武）

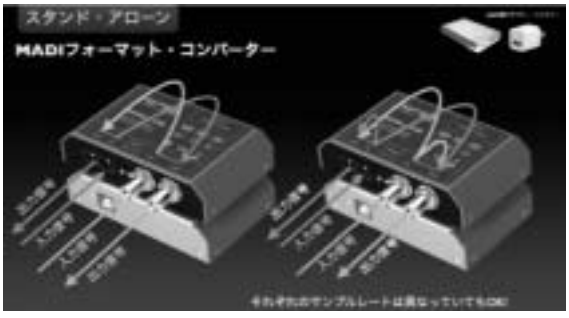
三橋 武 氏

その登場当初からMADI製品を開発し続けて来たMADIの正統「RME」からは、この春にNAMMで発表いたしましたMADI関連の新製品群のリリースが始まりましたことに関連して、実機を交えた製品紹介をさせていただきました。

MADIface XT -世界初USB3オーディオ・インターフェイス-

３系統のMADI（192ch分）をハーフラックに収めた驚異的なスペックのオーディオ・インターフェイス。192kHzでの録音時でも48チャンネルもの入力を確保できる、来るべき真のハイレゾ時代にマストで必要になるスペックを有した設計になっています。接続もUSB3の他にPCIeポートも搭載しているため、これをThunderbolt変換しての使用も可能です。

OctaMic XTC -オールマイティー・マイクプリアンプ-



8チャンネルの高品位マイクプリアンプをご紹介させていただきました。もちろんMADIポート搭載のモデルです。RMEのフラッグシップモデルである、Micstasyというマイクプリアンプがあるのですが、そちらに比べお値段もボディーサイズも半分になっているのですが、その音質は、、、？ということで、実際にMicstasyとA/B比較

ができる音源を２パターンお聞きいただきました。妥協のないOctaMic XTCの高いパフォーマンスがお判りいただけたのではないかと思います。

また、MADIを１系統（64ch分）搭載した、小型のオーディオ・インターフェイス、MADIface USBという新製品をご紹介させていただき、さらに、これらのマイクプリとMADIインターフェイスをどのように組み合わせて、接続して使用するかをご紹介させていただきました。　圧倒的に軽量でコンパクト、そして、現場でのノイズやトラブルに圧倒的に強い収録システムを組めるのは、オプティカルケーブルを使う事ができるMADIならではと言えると思います。

第３部：光ファイバー回線による遠隔地伝送～配信まで
（レゾネッツ合同会社　齊藤 征幸）（シンタックスジャパン　坂本 有紀）

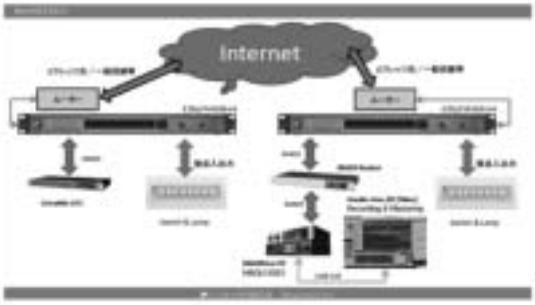
第２部が「音の入り口」だとすると、第３部は「音の出口」にあたるのかもしれません。MADIで収録したマルチトラックデータをインターネットで遠隔地へ伝送するシステムのご紹介。それから、当日のサプライズとして、当日の11月１日にローンチした音楽レーベル「RME Premium Recordings」のご紹介をさせていただきました。

坂本 有紀 氏

齋藤 征幸 氏

EtherMADI-64

グループカンパニーのレゾネッツ合同会社が開発した、MADI信号をIPパケットに変換し、既存ネットワークのインフラを利用してリアルタイムの長距離伝送を可能にする「EtherMADI-64」。これにより集音と録音の場所を分離する事が可能になり、個々の施設の設備投資や保守管理のコストの大幅な削減を行う事が可能になります。また、集音した音源のリアルタイム配信や、ダウンロード配信による新たなビジネスモデルを産む可能性を秘めた、イーサーネット⇔ MADIの変換ディバイスとなります。



RME Premium Recordings

RMEを使用して録音された、色付けのない透明無垢なサウンドで演奏会場の空気感さえも余すことなく録り込んだレコーディング作品を、録れたての音を産地直送さながらに、余分な加工をせずにユーザーの再生環境へ届けることを基本理念とし、録音段階から24bit/96kHz以上の真のハイレゾ・コンテンツを供給するために産まれたレーベル 「RME Premium Recordings」を設立したことを、ご存知、長江 和哉氏録音のアルバム「飛騨高山ヴィルトーゾオーケストラ　コンサート2013」の一節の試聴を挟みながらご報告させていただきました。

第 4 部： 懇親会

最後は、ビールとワインと軽食をご用意させていただき、ささやかな懇親会を催させていただきました。普段なかなかゆっくりとお話させていただく事ができない著名なエンジニアの皆様から色々とお話をお聞きする事ができ大変有意義なひと時でした。

最後に

今回、「エムアイセブンジャパン／シンタックスジャパン新製品説明会」を通じて、ご参加の皆さまに、正に音の入り口から出口まで、皆さまの日々のビジネスのお役に立てるような製品が弊社グループに多く存在すること、そして、今後もそれらの製品を通じて、広く音楽業界へ貢献できるような取り組みを行ってゆく所存である事を少しでもお伝えできたのであれば何よりの幸せでございます。

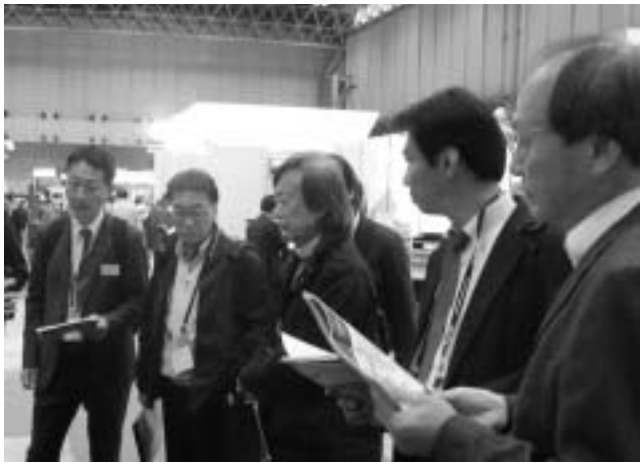
ご参加の皆さま、長時間のイベントにご参加いただき、誠にありがとうございました。
改めて心より御礼申し上げます。今後ともエムアイセブンジャパン、シンタックスジャパン、レゾネッツ合同会社を何卒よろしくお願い申し上げます。

Inter BEE 2013 賛助会員社ブースツアー レポート

株式会社メディア・インテグレーション
岡田 詞朗

11/13（水）から3日間に渡り幕張メッセにて開催されたInter BEE 2013（今回で14回目）では、音と映像と通信関連の団体が過去最多となる918社が1,491小間を出展し、2012年の来場者数を上回る31,979人の登録来場者数を記録、盛況のうちに閉幕しました。

このInter BEE 2013に際し賛助委員会では、正会員と賛助会員の親睦を深める、各賛助会員社が展示する製品をその担当者より詳細説明を行う等を目的とした＜賛助会員社ブースツアー＞を実施しました。当日ご協力を頂いた賛助会員は以下の16社となります。



＜出展社＞

●プロオーディオ部門展示13社
・エムアイセブンジャパン ～REMの新製品、PreSonus、Zynaptiq、KS Digital等の製品群をご紹介。
・オタリテック ～GENELEC1237AとMシリーズをご紹介。
・オーディオテクニカ ～コンデンサーマイクロホンAT5040を中心にご紹介。
・サンミューズ ～Soundminerを中心にご紹介。
・スチューダー・ジャパン ～VISTAシリーズを中心にご紹介。
・ゼンハイザージャパン ～Neumann TLM 107を中心にご紹介。
・ソリッド・ステート・ロジック・ジャパン ～Sigma、AWS948、Liveコンソールを中心にご紹介。
・タイムロード ～Focal Professionalより新製品のヘッドフォン、SM9を中心にご紹介。
・タックシステム ～NTP Technology社の製品を中心にご紹介。
・トライテック ～DIGITAL OUT付きのMIC HA 「LH2000D」を中心にご紹介。
・日東紡音響エンジニアリング ～モニタースピーカ「NES」と柱状拡散体「AGS」のご紹介。
・ヒビノインターサウンド ～TUBE-TECH、DPA、DK、AKG、JBL等をご紹介。

・メディア・インテグレーション ～WAVES DigiGridを中心にご紹介。

●映像部門展示３社
・アビッド テクノロジー ～新製品S6を中心にご紹介。
・カナレ電気 ～スピーカケーブル（複合導体仕様）、ギターケーブル（GR-6）等をご紹介。
・高橋建設 ～簡易型アナウンスブースをご紹介。

実際の＜賛助会員社ブースツアー＞では、上記ブースの全てを訪問し、各ブースのみどころ～イチオシの製品、技術等～をご担当の方からご説明頂き、より詳細な説明が必要と感じた場合は＜賛助会員社ブースツアー＞終了後に個別にそのご担当者様宛にお伺い頂くという方式で進行させて頂きました。

全部で16社を訪問する必要がありましたので、１ブースあたりの滞在時間は６～７分という結果となりました。その為、各賛助会員の担当の方には最も紹介を行いたい事柄を事前に選択、同時に参加者に必要性の高い各種資料を事前に準備頂いた結果、概ねその滞在時間内で進行ができたと思われます。ただ会場内とはいえ、その移動距離は相当になり更に16社全部を廻るにも２時間強かかりますので、参加頂いた方には体力的に厳しい時間を強いることになってしまったことが反省点の一つとして上げられます。しかしながら漫然と会場内を行き来するよりも効率良く、詳細な説明を体感できたのでは？とも思っております。

普段あまり機会の無い現場エンジニア、若手エンジニアと賛助会員スタッフの交流が生まれる事を狙いましたが、ツアー自体への参加人数が少なかったために、残念ながら良い結果を収めるには至りませんでした。今回の反省点を今後のブースツアーに生かしていきたいと思います。来年は是非とも多くの方々の参加をお待ちしております。又、今回ご協力を頂きました皆様には深く感謝致します。

第20回日本プロ音楽録音賞授賞式 レポート

「日本プロ音楽録音賞」は、平成５年に当協会が制定した「JAPRS録音賞」を出発点とし、音楽制作、録音に対する認識を高め、音楽産業の更なる質の向上、録音技術者の地位の確立などを目的として、平成６年より実施されているものです。

内沼 映二・運営委員長

今回第20回目の実施にあたり、一般社団法人日本音楽スタジオ協会および一般社団法人日本オーディオ協会、日本ミキサー協会、一般社団法人日本レコード協会、一般社団法人演奏家権利処理合同機構MPNの５団体が主催し、経済産業省の後援および日本放送協会、一般社団法人日本民間放送連盟の協賛、サウンド＆レコーディング・マガジン、ＣＤジャーナル、ステレオサウンド、レコード芸術の賛助、並びにビクターエンタテインメント（株)、(株）サウンドインスタジオ、オタリテック（株)、(株）ソニー・ミュージックコミュニケーションズ、東放学園音響専門学校の協力により「第20回日本プロ音楽録音賞」を実施し、平成25年12月６日（金)、東京ガーデンパレス２Ｆ「高千穂」に於いて授賞式、２Ｆ「天空」に於いてパーティーが開催され、受賞作品および受賞者の発表が行われました。

経済産業省・望月 孝洋氏

今回の授賞式も「音の日」のイベントとして開催され、はじめに内沼会長が運営委員長として開会の辞を述べられ、続いてプロ音楽録音賞に対し後援を得ている経済産業省 商務情報政策局 文化情報関連産業課 課長補佐 望月 孝洋氏が来賓代表として挨拶された後、６部門計14作品およびベストパフォーマー賞並びに、新人賞について表彰が行われました。

応募作品の分類については以下の通りとし、審査は以下の６部門およびベストパフォーマー賞、新人賞を対象に行われ、全84作品の応募から部門Ａ：２作品、部門Ｂ：２作品、部門Ｃ：３作品、部門Ｄ：２作品、部門Ｅ：１作品、部門Ｆ：４作品がそれぞれ優秀作品としてノミネートされ、その中から部門Ａ１作品、部門Ｂ１作品、部門Ｃ１作品、部門Ｄ１作品、部門Ｆ２作品が最優秀作品として選定され、更にベストパフォーマー賞１作品、新人賞２作品が選ばれました。

部門Ａ　２chパッケージメディア：クラシック/応募総数：６作品
（CD、SACD、DVD、BDの2chステレオ）
部門Ｂ　２chパッケージメディア：ジャズ、フュージョン/応募総数：10作品
（CD、SACD、DVD、BDの2chステレオ）
部門Ｃ　２chパッケージメディア：ポップス、歌謡曲/応募総数：27作品
（CD、SACD、DVD、BDの2chステレオ）
部門Ｄ　２chノンパッケージ：ジャンルを問わず/応募総数：11作品
部門Ｅ　サラウンド・サウンド：ジャンルを問わず/応募総数：４作品
（パッケージメディアおよび配信音源等のマルチchサラウンド）
部門Ｆ　放送メディア：放送作品部門（2chステレオおよびマルチchサラウンド）
/応募総数：26作品
（ラジオ番組：ＡＭ、ＦＭ、衛星放送）（テレビ番組：地上波、衛星放送）
ベストパフォーマー賞
新人賞

今回は、各部門の最優秀作品、優秀作品およびベストパフォーマー賞、新人賞を紹介するとともに、最優秀作品として表彰された代表エンジニアの方々およびベストパフォーマー賞のアーティスト、新人賞の代表エンジニアにアンケートを依頼し、受賞の感想、作品のコンセプトについてコメントをいただきましたので、29頁以降に掲載させていただきます。

第20回日本プロ音楽録音賞
授賞式次第

1、主催者代表挨拶

第20回日本プロ音楽録音賞　運営委員長
一般社団法人日本音楽スタジオ協会　会長　内沼　映二

2、ご来賓ご挨拶

経済産業省　商務情報政策局
文化情報関連産業課　課長補佐　望月　孝洋 様

3、最優秀作品・優秀作品の発表及び表彰並びに審査員講評

部門Ａ
一般社団法人日本オーディオ協会　会長　校條　亮治
ビクターエンタテインメント株式会社　サウンド・プロデューサー　高田　英男

部門Ｂ
一般社団法人日本オーディオ協会　会長　校條　亮治
ビクターエンタテインメント株式会社　サウンド・プロデューサー　高田　英男

部門Ｃ
一般社団法人日本レコード協会　理事　畑　陽一郎
日本ミキサー協会　理事長　梅津　達男

部門Ｄ
一般社団法人日本音楽スタジオ協会　会長　内沼　映二
ビクターエンタテインメント株式会社　サウンド・プロデューサー　高田　英男

部門Ｅ
日本ミキサー協会　理事長　梅津　達男
一般社団法人日本音楽スタジオ協会　専務理事　清水　三義

部門Ｆ
日本放送協会放送技術局制作技術センター　専任局長　鈴木　啓三郎
音響ジャーナリスト
株式会社マクス　代表取締役　加藤　茂樹

4、ベストパフォーマー賞の発表及び表彰並びに審査員講評

一般社団法人演奏家権利処理合同機構ＭＰＮ　副理事長　松武　秀樹
理事長　椎名　和夫

5、新人賞の発表及び表彰並びに審査員講評

一般社団法人日本音楽スタジオ協会　会長　内沼　映二

6、受賞者代表挨拶

部門Ｂ・Ｄ　最優秀賞　ミキシング＆マスタリング・エンジニア　鈴木　浩二

以上

部門A　「2ch パッケージメディア」クラシック
（写真は☆印の代表エンジニア）

【最優秀賞】
■作品「火の鳥」（COCQ-85011）より
「バレエ組曲《火の鳥》よりカスチェイ王の魔の踊り」
指揮：飯森 範親　東京佼成ウインドオーケストラ　CD

発売元：日本コロムビア株式会社

☆マスタリング・エンジニア：毛利 篤
（日本コロムビア株式会社 ）

〈受賞のことば〉
　この度は「第20回日本プロ音楽録音賞」部門A最優秀賞をいただき、大変嬉しく思っております。
　日本のトップ吹奏楽団である佼成ウインドと、ストラヴィンスキーを十八番とする指揮者の飯森氏の手腕による快演は、「火の鳥」が吹奏楽編曲版であることを忘れさせるほどでした。コロムビアの名ミキサーの手による抜群のバランス感覚と適切な距離感でのライブ収録は、会場の熱気を余すところ無く捉えていたと思います。受賞曲の冒頭では、多くの楽器が強打（奏）する音が繰り返され、その度ごとにホール全体に残響音が響きわたります。演奏もさることながら、この響きの壮大さには驚かされました。
　マスタリングでは、めまぐるしく展開するストーリーでの各楽器の生々しさ、定位感がリアルに伝わっているかに注目しました。特にバスドラムのスケール感、金管楽器のスピード感が失われることの無いよう、極力シンプルなイコライゼーションを施しました。また比較的明るい響きが特徴の東京オペラシティでの収録を念頭に置き、その特徴を生かしつつも壮大で深みのある音色を目指しました。
　今回の受賞にあたり、ミキサーの塩澤さんを始め、アシスタントの小野寺さん、またプロデューサーの馬場さんからマスタリング時に適切なアドバイスをいただいたことにも感謝申し上げます。
　この受賞に恥じぬよう、今後とも良い作品作りに精進したいと思います。

○ミキシング・エンジニア：塩澤 利安（日本コロムビア株式会社）

【優秀賞】
●作品「スクリャービン：練習曲全集／ボリス・ベクテレフ」（CMCD-28281）より
「練習曲 嬰ハ短調 作品2-1」ボリス・ベクテレフ　CD

発売元：株式会社カメラータ・トウキョウ

☆ミキシング・エンジニア：髙島 靖久
（株式会社カメラータ・トウキョウ）
○エディティング・エンジニア：宮田 基樹
（株式会社カメラータ・トウキョウ）

部門B「2ch パッケージメディア」ジャズ、フュージョン
（写真は☆印の代表エンジニア）

【最優秀賞】
■作品「ケイコ・リー・シングス・スーパー・スタンダーズ 2」（SICP3435）より
「My Romance（featuring村上てつやfromゴスペラーズ）」ケイコ・リー　CD

発売元：株式会社ソニー・ミュージックジャパンインターナショナル

☆ ミキシング＆マスタリング・エンジニア：
鈴木 浩二
（株式会社ソニー・ミュージックコミュニケーションズ）

〈受賞のことば〉
今回「最優秀賞」を頂き大変光栄に思うと共に、この作品に関わられた多くの方々に深く御礼を申し上げます。
アルバム「ケイコ・リー・シングス・スーパー・スタンダーズ２」は、誰もが知るスタンダードの名曲を多彩な豪華ゲスト達との共演、ケイコ・リーの幅広い交友関係を楽しめる１枚です。
受賞曲「My Romance（featuring村上てつやfromゴスペラーズ）」は、ケイコ・リーさんとゴスペラーズの村上てつやさんとのデュエット曲です。アレンジ・キーボードに野力 奏一さん、ドラム渡嘉敷 祐一さん、ベースに岡沢 章さんというメンバーで、皆さん出音と表現が素晴らしく、その楽器の特徴をそのままに録音をし、ケイコ・リーさんのヴォーカルの存在感を大きく繊細に表現するようにミックス・マスタリングしました。
録音システムは、96kHz 24bitでのPro Tools によるマルチレコーディング、ミックスは、DSDフォーマットで SONOMAに落とし込みました。リアル感のあるサウンドが伝えられたと思います。これを励みにまた新たな作品に取り組んでいきます。ありがとうございました。

○レコーディング・エンジニア：米山 雄大
（株式会社ソニー・ミュージックコミュニケーションズ）

【優秀賞】
●作品「TOMA Ballads 3」（TOMA-0007）より「The Summer Knows」
苫米地 義久　CD

発売元：TOMA MUSIC

☆ミキシング・エンジニア：高田 英男（フリーランス）
○マスタリング・エンジニア：袴田 剛史
（FLAIR MASTERING WORKS）
○アシスタント・エンジニア：粕谷 尚平
（ビクターエンタテインメント株式会社 ビクタースタジオ）

部門C「2ch パッケージメディア」ポップス・歌謡曲
（写真は☆印の代表エンジニア）

【最優秀賞】
■作品「edition 10」（VICL-63957）より「Sandstorm」paris match　CD
発売元：ビクターエンタテインメント株式会社

☆ ミキシング・エンジニア：谷田 茂
（ビクターエンタテインメント株式会社
ビクタースタジオ）

〈受賞のことば〉
この度は、第20回日本プロ音楽録音賞、最優秀賞にご選定頂きまして誠にありがとうございます。2006年以来の最優秀賞受賞に大変喜んでおります。改めましてparis matchのメンバーの杉山 洋介氏、ミズノマリ氏、作詞家の古澤 辰勲氏、ならびにマスタリング・エンジニアの川﨑 洋氏、その他この作品に携わられたミュージシャン、スタッフの皆様に感謝の意を表します。
paris matchの楽曲はポップスやAORを基調としたうえで、JAZZの高度なコードワークを用いた独特の音楽性が特徴です。音作りにおいても生楽器を立体的に表現し、迫力のあるサウンドを目指して音作りしました。タイトなドラムにしっかりフレーズがわかるベースライン、ポップスという事で、低域は重厚感というよりグルーヴ感を失わない程度にしっかり支えられる質感で表現しました。軽快なギターとエレピで透明感のあるミズノさんの唄を際立たせて、ブラスなども聴感上細く、小さく纏まらない様にレコーディングの段階でしっかり音作りできたので、厚みのあるアンサンブル感を失わずにミックスできました。
音楽制作も予算的、時間的にも厳しい環境下での作業を余儀なくされる昨今、与えられた範囲でどれだけの音作りができるかが、これからのエンジニアには求められると思います。
そのためには瞬発的なアイデアをいかに沢山その楽曲に盛り込めるかが重要なポイントになってきます。常日頃からの音楽に対する探究心を忘れず、これからも精進したいと思います。

ビクタースタジオ　谷田　茂

○マスタリング・エンジニア：川﨑 洋（FLAIR MASTERING WORKS）

【優秀賞】
●作品「ソランジュ」（COZA-772～3）より「ソランジュ」上間 綾乃　CD
発売元：日本コロムビア株式会社

☆ミキシング・エンジニア：三浦 瑞生（株式会社ミキサーズラボ）
○マスタリング・エンジニア：Stephen Marcussen
（Marcussen Mastering）

●作品「愛詞（あいことば）」（AICL-2536）より「愛詞（あいことば）」
中島 美嘉　CD

発売元：株式会社ソニー・ミュージックアソシェイテッドレコード

☆マスタリング・エンジニア：酒井 秀和
（株式会社ソニー・ミュージックコミュニケーションズ）
○ミキシング・エンジニア：甲斐 俊郎（フリーランス）
○レコーディング・エンジニア：藤田 敦（フリーランス）
○アシスタント・エンジニア：公文 英輔
（株式会社ソニー・ミュージックコミュニケーションズ）

部門D「2chノンパッケージ」
（写真は☆印の代表エンジニア）

【最優秀賞】
■作品「GRACIM」より「Puzzle Ring」　渡辺 香津美

フォーマット：96/24

ネット配信元：e-onkyo music

発売元：ewe records/㈱イーストワークスエンタティンメント

☆ ミキシング＆マスタリング・エンジニア：鈴木 浩二
（株式会社ソニー・ミュージックコミュニケーションズ）

〈受賞のことば〉

このたびは、2chノンパッケージ部門「最優秀賞」を頂き大変光栄に思います。ハイレゾ配信のタイトル増加や、視聴機器の種類も豊富に出てきている傾向を感じています。私もハイレゾ音源を意識し音づくりをしている最中に、このような賞を頂き大変うれしく励みになります。

アルバム「GRACIM」は「日々の暮らしと共にあってほしい音楽を」とのコンセプトで創り上げた渡辺 香津美流ホームメイド・インテリアミュージック。

受賞曲「Puzzle Ring」は鍵盤楽器を担当するパートナーの谷川 公子さん作曲で香津美さんとの絶妙なコラボレーションを表現しています。

ギター、ピアノ、シンセ等のトラックレコーディングはプライベートスタジオ「Hilltop Resort Studio」に於いて、すべて渡辺 香津美さんによるものです。

ミックス、マスタリングはソニー･ミュージックスタジオで私が行いました。トラックのサウンドは、香津美さんの感性そのままに録音され、クリアーで大変音楽的なものでした。谷川さんの想う風景を感じながら、立体感のあるサウンドにミックスしました。

レコーディングシステムは、香津美さんにより96kHz24bitフォーマットのマルチ音源が録音され、それをPro Tools上でミックスしました。その後、CDフォーマットとハイレゾ96kHz24bitにそれぞれマスタリングました。ハイレゾは、レンジが広くきめの細かい奥行きを感じ、私が意識をしていた立体感やリバーヴ感が表現できたと思います。これを励みに新たな作品に取り組んでまいりたいと思います。この作品に関わられた方々に厚く御礼申し上げます。

ありがとうございました。

○レコーディング・エンジニア：渡辺 香津美

【優秀賞】
●作品「黎明」より「銀河の旋律」　深町 純
フォーマット：96/24
ネット配信元：e-onkyo music

☆ミキシング＆マスタリング・エンジニア：沢口 真生
（有限会社 沢口音楽工房）
○アシスタント・エンジニア：伊藤 仁（フリーランス）

部門E　サラウンド・サウンド
（写真は☆印の代表エンジニア）

【最優秀賞】 今年度該当作品はありませんでした。

【優秀賞】
●作品「ベートーベン交響曲全曲演奏会2012年日本公演」（NSBS-18600）より
「ベートーベン交響曲第6番ヘ長調作品68「田園」 第4楽章～第5楽章」
マリス・ヤンソンス指揮　バイエルン放送交響楽団　Blu-ray Disc
フォーマット：96/24　5.0ch
発売元：NHKエンタープライズ

☆ミキシング・エンジニア：深田 晃（株式会社dream window）
○マスタリング・エンジニア：石井 亘（株式会社音響ハウス）
○共同制作・エンジニア：島嵜 砂生
（株式会社NHKメディアテクノロジー）

部門F「放送メディア」放送作品部門 2chステレオ
（写真は☆印の代表エンジニア）

【最優秀賞】
■作品「オンガクジェネレーション」より「Fly Me To The Moon」
八代　亜紀×May J.
日本放送協会　HDTV stereo 2013年8月10日放送

☆ミキシング・エンジニア：野口 康史
（日本放送協会大阪放送局）

〈受賞のことば〉
この度「第20回日本プロ音楽録音賞」部門F（2chステレオ）最優秀賞を頂き、大変光栄に思っております。番組立ち上げ時から携わり、今回で3回目の収録となった「オンガクジェネレーション」は、実力派アーティストによる世代を超えたコラボレー

ションをテーマにした番組です。一流ミュージシャンの生演奏にこだわり、その時その瞬間にしか感じる事の出来ないLIVEの魅力を余すことなく視聴者に伝えるという番組コンセプトのもと、毎回Mixに臨んできました。これまで収録を重ねる毎にディレクター、アレンジャー、ミュージシャンと綿密な打ち合わせを行い、修正、改善を幾度も繰り返してきました。収録にあたってはマイクアレンジや楽器配置もさることながら特にフォールドバックプランは再三検討を行い、より良い演奏環境作りを目指した結果、ミュージシャンのベストパフォーマンスを収音することが出来ました。

エンジニアの仕事とは、アレンジャー、ミュージシャンと同じ空間に入り込み、その共有感を音の代弁者として視聴者に伝えてこそ成立するものだと常々感じております。今回の最優秀賞受賞は大変な励みとなり、今後さらなるステップへ昇華するために日々感性を磨き精進していきたいと思っております。

最後に、このような素晴らしい舞台に立つチャンスを下さった諸先輩の皆様、『音楽』を心から愛する「オンジェネ」ディレクター陣の皆様、ほか収録でお世話になった全てのスタッフの皆様に厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

日本放送協会　大阪放送局　制作技術　野口 康史

○セカンド・エンジニア：佐藤 陽介（日本放送協会）

【優秀賞】

●作品「ジェットストリーム2013」より「夜間飛行（レイモン・ルフェーブル）」
指揮：円光寺 雅彦　演奏：東京フィルハーモニー交響楽団

株式会社エムエム東京　FM stereo　2013年３月23日放送

☆ミキシング・エンジニア：川島　修（株式会社エムエム東京）

「放送メディア」放送作品部門 マルチchサラウンド
（写真は☆印の代表エンジニア）

【最優秀賞】

■ 作品「BSプレミアム「ハンサムJAZZ クリス・ボッテイ日本公演」より
「Flamenco Sketches」クリス・ボッテイ

日本放送協会　HDTV　5.1ch　2013年３月20日放送

☆ミキシング・エンジニア：小野 良太
（日本放送協会）

〈受賞のことば〉

この度は「第20回日本プロ音楽録音賞　部門F放送メディア　マルチchサラウンド部門」にて最優秀賞という栄誉ある賞を頂き有難うございました。ハンサムJAZZは本来FM放送のラジオ番組で、2012年の夏から若手のJAZZプレイヤーや熟練のプレイヤーを取り上げ、そのライブを収録し放送する形態のものです。FM番組であっても映像があれば、すぐテレビ番組やパッケージとして出せるように、全ての収録で放送クオリティーを超えた、96kHz/24bit、マルチチャンネル、サラウンドで収録しています。こ

のクリス・ボッティ日本公演も当初はFM放送で企画されていたものでしたが、ハイレゾ・サラウンド収録とし映像も入れてテレビ化しました。録音およびミックスダウンはクリス・ボッティ氏のプロデューサーと細かな連絡を取り合い、すべての楽曲において、音質や表現について緻密な作業を繰り返し完成したものです。

素晴らしいトランペットの演奏と音の表現を最大限に引き出せるよう、録音からミックスまでを行いました。その音楽を評価していただいたことは、私達の今後の自信につながり、更に良い音楽番組を制作するためのステップアップとなります。

これからもこの賞の名に恥じぬよう努力していく所存です。本当に有難うございました。

NHK放送技術局制作技術センター番組制作技術部　小野 良太

○**セカンド・エンジニア：西村 靖宏**（日本放送協会）
○**アシスタント・エンジニア：山村 秋則**（日本放送協会）
○**アシスタント・エンジニア：馬越 朝広**（日本放送協会）

【優秀賞】

●**作品「2012サイトウ・キネン・フェスティバル松本 オーケストラコンサート」より**
「R.シュトラウス　アルプス交響曲」
指揮：ダニエル・ハーディング　演奏：サイトウ・キネン・オーケストラ

長野朝日放送株式会社　HDTV 5.1ch 2012年12月24日放送

☆**ミキシング・エンジニア：岩井 和久**（長野朝日放送株式会社）
○**セカンド・エンジニア：都鳥 真**（長野朝日放送株式会社）
○**セカンド・エンジニア：長野 健**（株式会社SCI）

ベストパフォーマー賞

■**作品「But Beautiful」より**
「Teach Me Tonight 」 後藤 輝夫＆佐津間 純
フォーマット：192/24
ネット配信元：e-onkyo music

後藤 輝夫 氏（左）
佐津間 純 氏（右）

アーティスト：後藤 輝夫＆佐津間 純

〈受賞のことば〉

○後藤 輝夫

亀吉音楽堂の上田氏から新進気鋭JAZZギタリスト佐津間氏とDuoをレコーディングしてみませんか？と連絡頂き、「待ってました。お願いします」とレコーディングが始まりました。佐津間氏の音はとても繊細かつ大胆で心を揺さぶられました。また上田氏の音に対する拘りも大変感動しました。各人の音楽に対する愛がこの音源の核になっております。

一度耳に透して頂ければ幸いです。

○佐津間 純

この度は、第20回日本プロ音楽録音賞ベスト･パフォーマー賞に選出していただき、とても光栄に思っています。僕自身は二年ほど前よりギタリストとして亀吉音楽堂で

のいろいろな制作に関わらせていただいていまして、今回の受賞作品『But Beautiful』もそんな中から生まれました。その制作作業は、レコーディング経験もさほど多くない新人ギタリストの僕にとっては十分すぎる貴重な経験でした。まず、テナーサックスの後藤 輝夫さんと一緒に演奏し、一つの作品を創っていく作業はとても刺激的でした。年齢も違えばキャリアも全然違う、そんな二人のミュージシャンがジャズという音楽を通して繋がって一つの作品が出来ていく。改めて音楽の素晴らしさを実感しながら演奏しました。そして、僕たち演奏家が一生懸命良いサウンドを目指すように、『良い音楽を創る』という熱い思いを持ち、いつも丁寧に録音してくださる亀吉音楽堂のエンジニア上田 隆志さん、そしてマネージメントの面でいつも支えてくださる亀吉音楽堂の鈴木 輪さん。彼らなくしてこの賞を受賞することはできませんでした。その他多くの方々の支えの中でこのような素晴らしい賞をいただくことができました。本当に感謝しています。この賞を励みに、これからも多くの人の心に響く、良いサウンドを目指して日々音楽に向き合っていきたいと思います　ありがとうございました。

新人賞

■作品「ジャズィ・カンヴァセイション」（NCS-868）より
「ジャズィ・カンヴァセイション」
SOIL&“PIMP”SESSIONS Feat.RHYMESTER　CD

発売元：ビクターエンタテインメント株式会社

☆ミキシング・エンジニア：渡辺 佳志
（ビクターエンタテインメント株式会社ビクタースタジオ）

〈受賞のことば〉
　今回、このような賞を戴いた事は光栄であり、これまでの自分のエンジニアリングや音楽との接し方が認められて嬉しく思っています。
　今後もまた感受性を磨き、技術を向上させていきたいです。

■ 作品「脱走のシーズン」（KSCL-2148）より「脱走のシーズン」 Prague　CD

発売元：株式会社キューンミュージック

☆ミキシング・エンジニア：野口 素弘
（株式会社ソニー・ミュージックコミュニケーションズ）

〈受賞のことば〉
　新人賞を頂き、大変嬉しく思っております。
　Pragueの「脱走のシーズン」は、３ピースというスタンスに常にこだわりつづけた彼らが、３人の絆をより強固なものにし、新たな魅力をも加味したフレッシュなサウンドが詰まっています。芯の太い、メロディの際立つ楽曲は、バンドとしての成長ぶりを存分に見せつける、沸々としたエナジーがみなぎっていました。
　そんな彼らとディレクターの白井さん含めプリプロの段階からレコーディング、ミックスダウンまでエンジニアとして作品に関われた事をとても幸せに感じ、この作品に関わって頂いた皆様に感謝します。
　このたびこのような賞を頂き大変光栄に思っております。これを励みに日々努力していきたいと思っています。

審査委員会

総合審査委員長		内沼　映二
副審査委員長		高田　英男
部門A･B･C･D･E	審査委員	内沼　映二、梅津　達男、川澄　伸一、椎名　和夫、 塩澤　利安、清水　邦彦、清水　三義、髙城　　賢、 高田　英男、中村　文俊、増田　　晋、松尾　順二 松武　秀樹、吉田　　保、脇田　貞二、渡辺　昭人
部門F	審査委員	加藤　茂樹、淺見　啓明、石野　和男、亀川　　徹、 清水　幸男、浜田　暁弘、深田　　晃

今回の顕彰内容については、各部門の最優秀作品と優秀作品の制作に携わったメイン・エンジニア、マスタリング・エンジニア及びベストパフォーマー賞のアーティストに表彰状とクリスタル製の表彰楯を贈呈し、セカンド・エンジニア、アシスタントエンジニアには表彰状を贈呈。また、新人賞についてはミキシング・エンジニアに表彰状とクリスタル製の表彰楯を贈呈。

なお、部門A、B、C、Dの最優秀賞については、優秀なスタッフと良好な環境を提供されたメインのスタジオについても表彰状とクリスタル製の表彰楯が授与された。

クリスタル製の表彰楯を手にした受賞者の皆さん

第20回日本プロ音楽録音賞審査委員講評

＜部門Ａ　2chパッケージメディア：クラシック＞

ビクターエンタテインメント株式会社
サウンド・プロデュサー 高田 英男

今年度から審査時の判断をより分かり易くする為に、クラシックとジャズ・フュージョンの作品を分けて審査し、それに伴い「部門Ａ クラシック/部門Ｂ ジャズ・フュージョン」を分けて顕彰する事に致しました。結果として今年度、部門Ａ クラシック作品の応募は6作品と少ない応募でしたが、どの作品も拘りの録音での応募作品でした。

受賞された作品の講評
優秀賞：ボリス・ベクテレフ/スクリャービン：練習曲全集ピアノソロ
レコード芸術誌　中沢編集長からの推薦作品です。
　エンジニア：高島 靖久さん（株）カメラータ・トウキョウ
　エディティング：宮田 基樹さん（株）カメラータ・トウキョウ
　プロデューサー：井阪 紘さん（株）カメラータ・トウキョウ
　代表取締役 高島さんと井阪さんにて大変多くの作品を制作されている名コンビによる作品です。
　録音はイタリア教会（聖クローチェ）、演奏に使用されたピアノはファツィオーリというイタリア製ピアノです。このピアノの音色的特徴は倍音が純粋に響き、楽器が共鳴などで邪魔をする雑音を見事にシャットアウトしている銘器との事。
　録音はワンポイント録音であり、直接音と間接音の絶妙なバランスにマイクポイントを決め、余裕のある高域の響き、安定した低域の解像力など、音楽の深さが伝わるサウンドです。楽曲への理解、時代背景、演奏者の思い、ホール音響空間など、一つ一つの深い造詣から創られた素晴らしいサウンドであると感じました。

最優秀賞
指揮　飯森 範親　東京佼成ウインドオーケストラ
「火の鳥」より「バレエ組曲　カスチェイ王の魔の踊り」
マスタリング・エンジニア：毛利　篤さん　日本コロンビア（株）からの応募作品です。
　エンジニア：塩澤 利安さん日本コロンビア（株）＊プロ録音賞の常連エンジニアであり、ジャズ～クラシックまで幅広く録音制作をされております。
　東京オペラシティー　タケミツメモリアルにてライブ録音作品です。
　迫力あるティンパニーの響き、力強いブラスサウンド、繊細な木管の響きなど、素直な帯域バランスの中に立ち上がりの良いクリアーなサウンドとなっております。
　素晴らしい録音技術により、音（音楽）の強弱表現がより音楽感動を伝える音創りになっています。マスタリング対応もフォルテシモでもつぶれる感じは少なく、自然で壮大なオーケストラサウンドに上手く仕上げていると思いました。
　プロ音楽録音賞において、特にクラシック作品についてはその時代を代表される録音が今までにも数多くあります。
　クラシック録音のチャンスが少なくなってきている事も事実で御座いますが、来年

度は更に多くの作品の応募を期待致します。
　最後になりましたが受賞されました皆様、本当におめでとう御座いました。

＜部門Ｂ　２chパッケージメディア：ジャズ、フュージョン＞

ビクターエンタテインメント株式会社
サウンド・プロデュサー　高田 英男

　今年度部門Ｂ ジャズ・フュージョン応募作品は10作品でした。音創りは素直にアコーステックサウンドを目指す作品と、巧みにサウンドクリエートした作品に分れております。

受賞作品の講評
優秀賞　サックス奏者　苫米地 義久「TOMA Ballads 3」より「The Summer Knows」
エンジニア：高田 英男　フリーランス
　マスタリング・エンジニア：袴田 剛史さん　FLAIR MASTERING WORKS
　プロ録音の運営の関係者が自らの担当作品を応募する事は大変勇気がいる事でしたが、苫米地さんのサックス演奏の素晴らしさを少しでも皆様に知って頂ければとの思いにより、応募させて頂きました。
　この作品はサックスプレーヤー苫米地さんとアレンジ・ピアノ演奏の石塚まみさんとの基本一発録音による制作であり、自然で力が入らない“ほっとするサウンド”を目指しました。それぞれのアーティストは自身の個性である音色感を持っていますが、特に苫米地さんの優しく深みのあるサックスの響きが心に届きましたら大変有難いです。
　又、96kHz/24bitのマスター音源を匠の技でＣＤマスタリングして頂きました袴田さんに感謝申し上げます。

最優秀賞
「ケイコ・リー・シングス・スーパー・スタンダーズ２」より「My Romance（featuring村上てつやfromゴスペラーズ）」
ミキシング＆マスタリング・エンジニア：鈴木 浩二さん（株）ソニー・ミュージックコミュニケーションズ　レコーディング・エンジニア：米山 雄大さん（株）ソニー・ミュージックコミュニケーションズ
　王道のフュージョンサウンドと感じました。
　録音、ミックス、マスタリングと全て対応される鈴木さんが担当された作品は、どの作品も安定感のあるインパクトの強いサウンドですが、素直で無理の感じない音創りであり、音楽に引き込まれる音創りをされる日本を代表するエンジニアです。
　今回の作品もドラムの渡嘉敷さんとベースの岡沢さんの名コンビによるグルーヴ感を、生々しくリアルな音質で表現されております。
　音創りの核となる安定したパワー感ある低音域サウンドが、ケイコ・リーさんと村上てつやさん歌を大変気持ちの良いサウンドで支えている事により、歌表情の繊細さも表現された、まさに名演奏・名録音の作品と感じました。
　最優秀賞の受賞、本当におめでとうございました。
部門Ｂ　ジャズ・フュージョン部門はエンジニアのクリエーティブ力を発揮しやすい音楽ジャンルと思います。来年度もエンジニアの感性と技術力による応募作品を期待し、講評とさせていただきます。

＜部門Ｃ　２chパッケージメディア：ポップス、歌謡曲＞

日本ミキサー協会
理事長　梅津 達男

部門Ｃの講評を述べさせていただきます。

先ず、応募作品数ですが、27作品で、昨年の33作品には届きませんが、安定した応募がありました。内容はポップが中心で、演歌などの歌謡曲はありませんでした。

ここで、音の傾向、印象に触れますが、ちょっと気になりましたのは、「音量」レベルです。ポップスなので、大きい音で聴きたい、自分達の作品を誰のものよりも大きい音で聴いてもらいたい。気持ちは分かりますが、ちょっと入れすぎです。盛り上がったサビではリミッターでつぶされて、元の波形を保っていません。かろうじて唄は分かりますが、他は、何の音か不明になりかけていました。

当然、こういった事を踏まえリミッティングを少し少なくして、各楽器を深めのコンプで抑え込んで、大きさを表現した音作りをした作品も増えていました。ＣＤのダイナミックレンジは、96dBといわれています。これは一番小さい音の何倍の大きい音を表現できるかと言う事を表しています。6dBが約２倍の倍返し、96dBは、約６万３千倍の比になります。実際には、最大のレベルは、枠で決まっていますから、「最大からどこまで小さい音を表現するか」という事になります。これが、広すぎるとラジオなどの媒体で、小さい音が聞き難くなります。でも、今のダイナミックレンジは、20から30dB・10から30倍・つまり1/10から1/30位の中に居ると思います。これを、100倍の40dBくらいに広げてリミッティングレベルを３dB下げると音の表情がとても豊かになると思います。

今回の優秀・最優秀作品は、このダイナミックレンジを大切にした作品が選ばれました。

優秀賞作品　上間 綾乃 「ソランジュ」

ミキシング・エンジニアの三浦 瑞生さんは、昨年も受賞されており、今の時代の音を良く知っている方です。楽曲の持つ「やさしさ」を大切に、無理なリバーブ・響きを使わず自然な音でドラム・ストリングスを纏め、やわらかい三線とＡＧｔでＶｏを支えていました。

もう一つの優秀賞　中島 美嘉 「愛詞（あいことば）」

編曲は、大御所 瀬尾 一三 さんで、ダイナミックで王道のストリングスを、エンジニアの 甲斐 俊郎 さんは、マイクに入って来た素直な音を、ストレートに表現し、Jポップのサウンドに仕上げ、中島さんの唄の上手さを引き出していました。

そして、最優秀賞　paris match 「Sandstorm」

ミキシング・エンジニア 谷田 茂さん マスタリング・エンジニア 川﨑 洋さん。お二人は、2011年のプロ録で、やはりparis matchで受賞しており、今回は、最優秀賞の獲得です。生を知り尽くしたプロデューサー、杉山さんとのコンビも抜群で濁りと歪の無いクリアな音は、高音質への拘りを、制作の隅々まで、生かした仕上がりでした。

さて、プロ録の応募ですが、よく「HiFiじゃないから」と ためらう声を耳にします。確かに審査もある程度大きな音で審査し、音質の良いものを選ぶ傾向にあります。しかし、最終的には音楽に合った音創りを評価しているつもりです。

来年も沢山の応募をお願いして講評と致します。受賞者の皆さん本日は本当におめでとうございました。

＜部門D　2chノンパッケージ：ジャンル問わず＞

ビクターエンタテインメント株式会社
サウンド・プロデュサー　高田 英男

昨年度はトライアルとしてハイレゾ配信音源作品をオーディオ・ファイル賞とし、顕彰させて頂きましたが、今年度から新たに独立した部門D「2chノンパッケージ」として審査顕彰をさせて頂くこととなりました。

今年度もe-onkyo music様のご協力を頂き、推薦～応募作品併せて11作品の応募作品となりました。

受賞作品講評

優秀賞　深町 純「黎明」より「銀河の旋律」　　96kHz/24bit録音

尚、この作品は深町 純さん最後のハイレゾ録音、ピアノソロ作品です。

ミキシング＆マスタリング・エンジニア：沢口 真生さん（有）沢口音楽工房、アシスタント・エンジニア：伊藤 仁さん フリーランス

深町 純さん自身、ピアノ演奏において大変アタックが強いピアニストでありますが、この作品はピアノサウンドのリアル感、素晴らしい透明感など、演奏されているピアノ線一本一本が見える感じの素晴らしい録音と感じました。

まさにハイレゾリューションならではの素晴らしい解像力を上手く表現された作品です。

又、沢口さんのコメントにもありますが、PYRAMIX NATIVE+RME（ピラミックス ネイティブ）のコンパクトな録音システムにての録音であり、デジタル時代の新たな音楽制作への提案もされている作品と感じました。

最優秀賞　渡辺 香津美「GRACIM」より「Puzzle Ring」96kHz/24bit録音

アルバム「GRACIM」は「日々の暮らしと共にあってほしい音楽を」コンセプトに制作。ミキシング＆マスタリング・エンジニア：鈴木 浩二さん（株）ソニー・ミュージック・コミュニケーションズ　　レコーディング・エンジニア：渡辺 香津美さん香津美さんのプライベートスタジオ録音。

パーカッション、シンセベースにて低域の安定したリズムの芯を創り、その上にギターとピアノサウンドが、絶妙なバランスにより融合された音創りになっております。

ハイレゾリューション独特の解像力の良さもあり、ギターサウンドにおける繊細なフレーズも奥行き感を持って表現され、鈴木さん自身のコメントにもありますが、まさに立体的サウンドに纏められた素晴らしいサウンドと感じました。

ハイレゾ音源を審査して改めて感じた事は、CDパッケージメディアの音質とはあきらかな違いを感じています。

CDパッケージほど頑張ってレベルを入れていない・・無理のない音創りも一つにはありますが、ハイレゾリューションの音楽表現する器の違いが、音質にも大きな差になっています。又、昨年度はハイレゾを意識した作品が多いという感じがしましたが、今年度ハイレゾ作品は更に成熟し、全ての音楽ジャンルでハイレゾ録音による魅力を音楽制作に生かしている、録音制作の新たなステージに入ってきたと感じました。

このハイレゾリューションによる音楽制作が新たな音楽ビジネスの活性化、及びオーディオの魅力を伝える力になる事を期待し、講評とさせていただきます。

最後になりましたが受賞されました皆様、本当におめでとう御座いました。

＜部門E　サラウンド・サウンド：ジャンル問わず＞

（一社）日本音楽スタジオ協会
専務理事 清水 三義

部門E サラウンド・サウンドの作品につきまして講評させて頂きます。

昨年は部門Cとしてサラウンドのパッケージを対象にした部門でしたが、今年からは部門Eとして、パッケージ以外の配信などのサラウンド作品も対象としています。

今年の応募作品はBlu-ray DiscとDVDのLive映像作品、SACDのLive作品、WAVファイルのスタジオ録音作品というそれぞれメディアの異なる４作品でした。

応募数が4作品と言う事もあり審査委員の皆様に計りましたところ、部門Eにつきましては、優秀賞１作品のみを選定させていただきました。

応募作品を簡単にご紹介させて頂きますと、WAVファイルでのスタジオ録音作品は、ノンパッケージ２ch、部門Dにおいて受賞された作品の5.0chサラウンドバージョンです。ピアノの一音一音が目の前で踊るようなリアル感が素晴らしい作品でした。

SACD 4.0chの作品は、合唱とオーケストラの大編成のLive作品で、マイクセッティングに制約のあった難しい録音ですが、合唱のボリューム感とホールの臨場感が良く捉えられていると感じました。

DVDの東京芸術劇場で行われた5.0chサラウンドのLive映像作品は、演奏のダイナミズムがよく捉えられ、臨場感といい、演奏の熱気、緊張感が迫ってくる優れた作品でした。

さて、優秀賞を受賞されました深田 晃さんの作品です。

ベートーベン 交響曲 第６番 ヘ長調 作品68「田園」第４楽章～第５楽章

マリス・ヤンソンス指揮　バイエルン放送交響楽団がサントリーホールで演奏したLive作品です。Blu-ray Discで音声は96kHz/24bit L PCM 5.0chのサラウンド作品です。

聴いて思う事は、曲は勿論ですが、演奏も録音も素晴らしいのひと言です。

木管の生き生きとしたさま、緻密な弦の響き、それらを支える低弦の重厚さ、このようなオーケストラの音のうねりは　風の音、木々のざわめき、楽しそうな人々……楽章に付けられた標題の情景が素直に浮かびます。又、オーケストラの定位も大変良く、美しい響きの木管から左右のバイオリンに音が移りさらにビオラやセロに受け継がれる音の動きのリアリティは、ホールの特等席で聴いているような臨場感のあるサラウンドサウンドです。

深田さんは今回のミキシングポリシーを「指揮者マリス・ヤンソンスの表現を実現する事」と述べています。その為に、常識的なマイクセッティングだけでなく、ピッコロや2ndバイオリンなどにもマイクを設置し、そして、「ダイナミクスと繊細さ、豊かな響きとクリアーな音」という相反するテーマを持ち、注意深くミキシングされたそうです。

今回の受賞は、このような深田さんの音楽に対する深い造詣と長年培われました技術力による賜物と思います。これからも益々のご活躍をお願い致しまして 終わります。

深田さん、そして、作品に携わりました皆様、受賞おめでとうございます。

＜部門Ｆ　放送メディア＞

音響ジャーナリスト
株式会社マクス 代表取締役
加藤 茂樹

加藤でございます。昨年まではこの部門、淺見 啓明さんが審査委員長をなさっていたんですが、ご自身の体調等もあり、今年は私が審査委員長を務めさせていただきました。

怪しげな肩書きで出てまいりましたが、私も放送局出身で東京放送で音楽番組のプロデュースやレコーディング、その後デジタル放送諸々の番組に関わってきたという、まあほとんど音声をやっているような世界でありましたので、的確なことが講評できるかどうかわかりませんが、一生懸命やらせていただきます。

放送部門の審査といいますと、会場で今のような映像などを視聴して、自宅で再現するわけにはいかないようなものが多いものですから、再現して確認して今日お話することをまとめるのは結構しにくい部門であるというのは確かで、今、感慨深く１曲１曲を聴かせていただいたわけですけれど、放送部門と言いますと、お聴きいただいたようにみんなライブ作品、いわゆるコンサート会場とう感じで出ている作品が多いのですが、これは番組の性格上当然そういう方向になって、良い音楽を皆様方に聴いていただくということでは意味のあることであろうという風に思っております。

４作品が選ばれたわけですけれども、選に漏れた相当数の応募作品も、今年は皆さん優れた作品が多かったというのが審査員の感想なんですが、その良かったねという背景には、必ず音楽そのもののニュアンスや雰囲気を感じさせるという意味で録音が上手くいくと、それで良かったねという表現になると思うのですけれど、審査員の皆さんがおっしゃっているんですが、良い録音と言われる、ここで表彰されるような録音というものは、素材となる良い音楽との出会いがないと、創れないものですので、まあ私もそういう経験をよくしたのですが、良い音楽と表裏一体にあるというようなことで、その音楽をどう表現していくかというのが審査の一つの基準、もちろんその音声をどう扱うかという問題と関わるのですが、それが表裏一体で、良い作品が生まれるかどうか、という所かなという風に思います。

個々の作品についてお話をしていこうと思いますが、まず2chステレオの優秀作品に選定されたFM東京さんの「ジェットストリーム」ですが、昔から楽しみに聴かせていただいていた大好きな番組で、懐かしい思いで聴かせていただいたのですけれども、ナレーションが入って、一つの作品として完成する、言ってみれば音響構成というか、放送の一つの手法かなと言う風に思いますが、録音構成というニュースの手法が放送にはあるわけですけれど、それを音響の方に、オーケストラとナレーションという違う素材をコラボレートして一つの作品にまとめていくという、この作品は非常にその辺りのニュアンスがライブでありながら心を打つものがあったという風に感じます。

オーケストラの収録ですが、ライブでよくなさったなと、非常に臨場感に溢れ、しかもディテールの良いオーケストラサウンドとして、あのジェットストリームのイメージ通りのサウンドが出ていたという風に思います。

2chでスケール感のある、いわゆるステレオとして音場を十分にうまく使った録音だったと思います。それとナレーションとのコラボレーションで、まあ、ジェットストリームは昔からそういう風になさっているんですが、放送ならではの、ラジオならではの一つのジャンルを確立なさっているというようなことを感じました。

次に、2chステレオの最優秀作品となったNHKさんの「オンガクジェネレーション」、

これは非常に良い企画で女性シンガーの異色の顔合わせで、しかも有名なジャズの曲をやる、なかなか卓越した企画だと思うのですが、その企画をいかに聴かせるかという所で、非常にうまい表現をなさっている、特に八代 亜紀さんとMay J.さん、声質のまったく違う歌手を、デュオという形で二人をミックスして一つのサウンドにまとめていくという所がとても素敵だったと思います。

2chのステレオ音場、ないしは2chのジャズの表現ということで言ったらほとんどこれを越えるのは難しいかなというのが審査員の意見でありました。

個々の音について申し上げるまでもなく、全体に上手な臨場感、会場のイメージの表現であるとか、ジャズとしてのリズム感などが、この番組の聴かせ所だったのかなと思います。2chでここまでいける、というのが示されたと思います。

次にマルチchサラウンドの作品ですが、以前このコンテストの放送部門というとクラシックがほとんどだったんですが、今回、多数のクラシック作品の中から、入賞作は唯一サラウンド部門で長野朝日放送「サイトウ・キネン・オーケストラ」の「アルプス交響曲」が優秀賞に選ばれたわけですが、録音された岩井さんは、このコンテストの常連で、同じ「サイトウ・キネン・オーケストラ」で毎回高評価され、去年は最優秀賞を取られていますが、今回の作品は大編成でアルプスの壮大さを表現しようという作曲者の意図を、数多くの楽器を使った、クラシックの中でも相当特異な編成を実に上手に音場の中に巧みに配置して、ちょっと違った言葉を使えば、構造体としての音響構造というような形にまで美的な美しさと音楽性を表現なさったという風に思います。

一つ気になったのは、観客から見えない所に配置するという約束事があるようなパート、金管楽器を使って表現をする、どこから聞こえてくるかわからないような音、パートを持っているわけですけれど、その表現に関していろんな考え方があるし、サラウンドということがあって、そこを強調するという意味では今回の作品は上手くいったと思うんですが、ちょっとON過ぎるかな、クリア過ぎると、どこから聞こえてくるかわからない感じでオーケストラとして観客から見えない所で演奏すると、そういう仕掛けだからそれはどういう風に扱うか、レコーディングされる方の考え方、あるいはディレクターないしは指揮者の考え方もあるかと思いますが、私たち審査員はちょっと近いかなあ、という意見が多数出ましたので、一応お伝えしておきます。

私自身も、どちらかというとその部分は少しくすんだ音の方が良かったのかなあという風に感じました。

しかし岩井さんの「サイトウ・キネン」という馴染みの素材を実に巧みにスケール感と共に伝えてくれたことに対して、非常に感激したことをお伝えしておきます。

マルチchサラウンドの最優秀賞ですが、MHK小野さんのクリス・ボッティ「Flamenco Sketches」、マイルスの「Kind of Blue」の中に収録されていた曲なんですけれども、それをアナログレコードで聴いてみました。なるほど、こういう曲だったんだなあ、という感じを思い出したりして、まあ比べるものでもありませんが、マイルス・デイビスの時代とは何十年も差があって、現代のジャズとしての表現の仕方、あるいは、こうありたいというような所を実に上手くまとめておられたと思います。

特にマイルスはミュート・トランペットの奏法をよく使っていましたが、今回もクリス・ボッティのミュート、音色からバランスから実にすばらしいと、これ以外のバランスがもしかしてあるのかなあと考えてみたんですけれど、それも無いかなあという風に思います。

特に私もジャズをしばらくやっていたものですから、こういうのはうるさいよなん

て言って聴いていたんですが、悪い点付ける所はどこもないので、それで本作が最優秀ということになりました。

この番組が素敵なのは、本来FMラジオ用の素材として収録されていますが、全ての収録が96kHz/24bit、マルチchサラウンドで収録されていることから、FM放送で企画されていたものを、映像も伴ったテレビ番組化したいとの要望が受け入れられ、テレビ収録が実現したという風に伺っております。サウンドをまとめるにあたって、演奏者側と再度打合せをなさって磨き上げていった、そういう所もあって非常に完成度の高いサラウンドに仕上がったと、作品として非の打ち所がないという風に、私にはちょっとできないなという感じで聴かせていただきました。

こういう試みは大歓迎ですので、是非挑戦していただけるとうれしいなあ、という風にも思います。

やはりトータルでみて、出品された作品はすべて水準以上で、どの作品を取り上げるかというのは、音楽の表現と、レコーディングというものの両立がどこまでいけたかというのが一つの基準になって、こういう結果になったと思います。

放送メディアの在り方というのは、今後いろいろ周辺メディアが発達してくると攻めぎあいもあるかと思いますが、是非がんばってまた来年も良い作品を聴かせていただきたいと思います。

どうもありがとうございました。

＜ベストパフォーマー賞＞

MPNの椎名でございます。

後藤さん、佐津間さん、本日はおめでとうございます。

（一社）演奏家権利処理合同機構MPN
理事長 椎名 和夫

今回受賞された作品は、サックスとギターだけで、淡々とスタンダードナンバーを演奏する「But Beautiful」というアルバムの中の「Teach Me Tonight」という曲です。ナット・キング・コールなどが歌っていてみなさんお馴染みの曲なんですけれど、今回ハイレゾの配信ということで、192kHz/24bitという極めて広いレンジの中で、サックスとギターと、それから聴き手である自分自身も含めて、ひとつの同じ部屋の中でとても親密な関係で居合わせているという風な、音楽としてすごく上質な世界観を提示しているのではないかと思いました。先程来お話が出ていますけれど、昨今はヘッドルーム目一杯まで詰め込むというような音楽が巷にあふれている中で、この編成でスタンダードナンバーをやるということ自体がすごくチャレンジーだと思いますし、すごく新鮮だったと思います。

部屋全体がいい感じで鳴っている中で、サックスのバルブの音とか、ギターの弦の音を擦る音とか、イスの軋みまでが聞こえてくるような、とてもオープンなサウンドにすっかり魅了させられてしまいました。またこのアルバムは、亀吉音楽堂というスタジオで録音されたということですが、レコーディングにあたられたエンジニアの方の力量もかなりすばらしかったのではないかと思います。

サックスの後藤さんは、1953年生まれということで、ほぼ僕と同世代、あがた森魚さんとか、吉田美奈子さんとかと一緒に活動されていたということで、きっとどこかですれ違っていたかもしれないのですが、一方で、ニューヨークでライジング・サンのメンバーとして活躍して来られた、いわゆるジャズ界のベテラン中のベテランとい

うようなポジションにおられる方です。
一方で佐津間 純さんは、1982年生まれということなので、後藤さんの約30才年下ということになりますね。洗足学園大学を出られて、やはり渡米をされてバークリーで修業されてから日本に戻り、ジャズギタリストとして精力的に活動されております。
こんな年の差のコンビが、一体どういうきっかけで出会ってこの作品が生まれてきたのか？というあたりに興味が尽きないところではありますが、これからも是非こうした聴き応えのある作品を継続して制作して行っていただけるように、心からお願いしたいと思います。
本日はおめでとうございました。

＜新人賞＞

まず、野口 素弘さんのPragueの「脱走のシーズン」の講評をいたします。

（一社）日本音楽スタジオ協会
会長 内沼 映二

まず、基本的に３ピース、つまりギター、ドラムス、ベースのロックサウンドですが、全体の仕上げとしては、今、流行りのコンプレッションサウンドに仕上がっています。
特に、ドラムス、ベースの極太な音作りでパワー感とビート感を醸し出しています。
また、ギターサウンドの作りもクリアーな収録がされて、特にディレー及びリヴァーブの使い方や、右左のパンニングの手法も非常に見事です。
野口さんはまだ31歳とのことですが、将来楽しみなエンジニアと思います。
さて次は、渡辺 佳志さんのSOIL&"PIMP"SESSIONS Feat.RHYMESTERですが、渡辺さんは35歳とのことで、この新人賞のアンダー35歳のぎりぎりでの入賞になりましたが、おめでとうございます。
この作品ですが、さて音楽ジャンルは何になるのか考えてみましたが、私なりに、ヒップホップ・JAZZかなと思いますが、JAZZサウンドをベースにラップやスクラッチがうまく融合している、聴いていて非常に楽しい音楽です。
サウンドの方は、JAZZはナチュラルなJAZZサウンドに仕上がっていまして、特に、収録が難しいとされている、ウッドベースの音作りは非常にうまいと感じました。
そのJAZZサウンドにラップとスクラッチが、下手をすると、どれかが浮き立ってしまい、全体が崩れてしまいますが、渡辺さんのミックスは見事に溶け合い、独特な音楽世界を作っています。
お二方とも、音楽感性と共に、より精進していただきこれからの日本音楽文化の柱になっていただきたいと思います。どうもおめでとうございました。
本日は、師走のお忙しい中、経済産業省の皆様をはじめ、たくさんの方々のご出席をいただきまして誠にありがとうございます。プロ録も今回で20回を迎えることができました。これも20年間多くの方々のご支援とご協力のおかげと思っています。
人間でいえば、成人式を迎えた訳ですが、プロ録としてはまだまだ成人にはなっていません。
プロ録をより大きく、より権威のある賞にしたいと思っています。

「音の日のつどいパーティー」レポート

平成２５年12月6日（金）「音の日」記念イベントとして、18：00より東京ガーデンパレス2F「天空」に於いて、当協会および一般社団法人日本オーディオ協会、日本ミキサー協会、一般社団法人日本レコード協会、一般社団法人演奏家権利処理合同機構MPNの共催により、第20回日本プロ音楽録音賞授賞式関係者と当日併行して開催された 一般社団法人日本オーディオ協会主催の「音の匠顕彰式」関係者が参加した「音の日のつどいパーティー」が開催された。

（社）日本音楽スタジオ協会
内沼 映二 会長

経済産業省 文化情報関連産業課
課長補佐 望月 孝洋 氏

当日の模様を以下にレポートさせていただきます。

日本プロ音楽録音賞授賞式の司会に続き、進行役は石井 みゆき氏が務め、最初に 当協会・内沼 映二会長より来場者に対して開会の辞が述べられ、続いて来賓代表として経済産業省 商務情報政策局 文化情報関連産業課課長補佐 望月 孝洋氏が挨拶された後、音の日実行委員長の森 芳久氏より、本年度の「音の匠」として顕彰された内容が以下の通り紹介された。

平成25年度 第18回「音の匠」は、“VOCALOID”の開発・応用による「新たな、音楽及び音の表現方法により、新しい文化を創造」された、ヤマハ株式会社 事業開発部 yamaha+推進室 VOCALOIDプロジェクトリーダーの剣持 秀紀氏が「音の匠」として顕彰されました。

「音の匠」受賞者
剣持 秀紀 氏

続いて、第20回日本プロ音楽録音賞に於いて表彰された各部門の受賞者を代表して、最優秀賞に選定された代表エンジニア６名、ベストパフォーマー賞２名および新人賞２名が紹介された後、エンジニアを代表して、（株）ソニー・ミュージックコミュニケーションズ 鈴木 浩二氏が挨拶を述べられた。

部門Ａ　「2ch パッケージメディア：クラシック」
　　毛利 篤 氏　日本コロムビア（株）
部門Ｂ　「2ch パッケージメディア：ジャズ、フュージョン」および
部門Ｄ　「2ch ノンパッケージ：ジャンル問わず」
　　鈴木 浩二 氏（株）ソニー・ミュージックコミュニケーションズ
部門Ｃ　「2ch パッケージメディア：ポップス、歌謡曲」
　　谷田 茂 氏　ビクターエンタテインメント（株）ビクタースタジオ
部門Ｆ　「放送メディア：2chステレオ」
　　野口 康史 氏　日本放送協会 大阪放送局
部門Ｆ　「放送メディア：マルチchサラウンド」
　　小野 良太 氏　日本放送協会
ベストパフォーマー賞
　　後藤 輝夫 氏＆佐津間 純 氏
新人賞
　　渡辺 佳志 氏　ビクターエンタテインメント（株）ビクタースタジオ
　　野口 素弘 氏　（株）ソニー・ミュージックコミュニケーションズ

（一社）日本レコード協会
理事・畑 陽一郎 氏

鈴木 浩二氏の挨拶の後、一般社団法人日本レコード協会理事・畑 陽一郎氏による乾杯の発声が行われ、歓談タイムとなる。会場内では受賞者を取り囲んでの写真撮影や談笑する場面が見受けられ、今年も様々な音のプロフェッショナルな方々が一同に会する場となりました。

最後に中締めの時間となり、一般社団法人日本オーディオ協会・校條 亮治会長より、参加者に対して御礼の挨拶が述べられた。今回もプロ音楽録音賞の運営委員会および審査委員の皆様をはじめ、多くの関係者のご協力により、第20回目を無事に終了することが出来ました。有難うございました。

（一社）日本オーディオ協会
校條 亮治 会長

会　員　動　向

1．会員数（平成25年１月１日現在）

正会員（法人）	25法人	正会員（個人）	20人
賛助会員Ⅰ	41法人	賛助会員Ⅱ	２法人

2．法人・会員代表者および住所変更、その他

①法人正会員

○法人代表者変更

株式会社サウンドインスタジオ

（旧）伊藤　和明

（新）柏木　登（代表取締役社長）

○社名変更

（旧）株式会社サンライズミュージック

（新）株式会社サンライズスタジオ

（旧）株式会社バーニッシュ

（新）ヴァストミュージックエージェンシー株式会社

○会員代表者変更

メモリーテック株式会社

（旧）鳥越　信幸（オーディオスタジオ事業部部長）

（新）沼能　隆（オーディオスタジオ事業部マスタリンググループ課長）

○会員代表者役職名変更

株式会社東急文化村　池田　光宏

（旧）事業部部長

（新）運営事業部部長

○法人代表者変更

株式会社USEN

（旧）中村　史朗

（新）田村　公正（代表取締役社長）

②賛助会員

○会員代表者変更

東京スクールオブミュージック

（旧）松永　昭一

（新）佐久間　康明（プロミュージシャン科）

○法人代表者変更

学校法人コミュニケーンアート　大阪スクールオブミュージック

（旧）鞍井　修一

（新）木村　吉宏（学校長）

○会員代表者変更

カナレ電気株式会社

（新）大野　淳一郎（常務取締役 常務執行役員 経営企画部長）

〒222-0033 神奈川県横浜市北区新横浜2-4-1

TEL: 045-470-5503 FAX: 045-470-5504

○法人代表者変更、会員代表者役職変更

ナショナル物産株式会社

（旧）瀬崎　巌
（新）林田　洋（代表取締役社長）
（会員代表者）戸野　博文（取締役上席執行役員）

3．その他

○移転
株式会社ジェイ・ピー・アイ
〒104-0051
東京都中央区佃2-2　10-2103
TEL：03-5859-0712 FAX：03-5859-0713

○会長変更
一般社団法人 日本レコード協会
（旧）北川　直樹
（新）斉藤　正明

○会長変更
一般社団法人 日本エレクトロニクスショー協会
（旧）中鉢　良治
（新）佐々木　則夫（株式会社東芝取締役副会長）

○移転
一般社団法人 日本オーディオ協会（2013.08.05～）
〒108-0074
東京都港区高輪3-4-13 レフォルマ高輪4F
TEL：03-3448-1206 FAX：03-3448-1207

○移転
SIGN SOUND
〒164-0011
東京都中野区中央一丁目35-6 レッチフィールド中野坂上 8F
TEL：03-5937-1462 FAX：03-5937-1463

○移転
株式会社　滋慶出版
〒134-0084
東京都江戸川区東葛西6-7-5
TEL：03-5658-1226　FAX：03-5658-1226

○移転
一般社団法人 日本歌手協会
〒104-0032
東京都中央区八丁堀1-1-3 協栄八重洲ビル４Ｆ
TEL：03-6280-4230 FAX：03-6280-4234

○会長変更
一般社団法人 日本音楽事業者協会
（旧）尾木　徹
（新）堀　義貴

○移転
一般社団法人 全日本テレビ番組製作者連盟（2013.8.19～）
〒105-0001
東京都港区虎ノ門2-9-8 あまかすビル６階
TEL：03-6205-7858 FAX：03-6205-7859

○代表取締役社長変更

dts Japan株式会社
（旧）小玉　章文
（新）Brian Towne
○事務局長変更
日本デジタル・フィルムラボ協会
（旧）榎本　正男
（新）松原　健浩（（株）イマジカ取締役執行役員営業統括）
○移行
株式会社オーマガトキ
（旧）（株）新星堂グループ
（新）日本コロムビア（株）グループ
○移転
一般社団法人 日本映像ソフト協会（2013.12.2～）
〒104-0045
東京都中央区築地2-11-24 第29興和ビル別館2階
TEL：03-3542-4433 FAX：03-3542-2535（共に変更はなし。）

♪　編　集　後　記　♪

2014年 明けまして御目出度う御座います。
消費増税にも・復興特別所得税にもめげず心穏やかな一年で有ります事を・・・
安全・安心・安定を身近に感ずる一年でもあります事を・・・。

うさぎ

２度目の東京オリンピックが決定し、また々様変わりする世の中のテンポが速くなりそうですが、日本の本来の良さが失われないことを祈りたいですね。

hair ken short

東京オリンピック開催が決まり、楽しみです。頑張って生き抜いて是非生で見たいと思います。

yakiton

明けましておめでとうございます。新たな気持ちで少しずつでも前進して行けたらと思います。本年も宜しくお願い申し上げます。

mm

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊ 運　営　委　員　会 ＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

委 員 長　広岡　淳利（音響ハウス）
委　　員　佐藤　賢一（事務局）
〃　　山本　　薫（　〃　）
〃　　伊東　真奈美（　〃　）

＊＊＊

【発行人】 会　長　内　沼　　映　二　　【発　行】 2014年（平成26年）１月
【発行所】 一般社団法人 日本音楽スタジオ協会
〒169-0072 東京都新宿区大久保2丁目1番11号　モナーク大久保３F
TEL. 03－3200－3650　　FAX. 03－3200－3660
http://www.japrs.or.jp　　E-mail:japrs@japrs.or.jp
【編　集】 運　営　委　員　会　　【印刷所】 株式会社研恒社

JAPRS

Japan Association of Professional Recording Studios
http://www.japrs.or.jp E-mail:japrs@japrs.or.jp